

注3

大学番号：私266

[平成29年度設置]

計画の区分：学部の設置

注1

認可

広島修道大学 健康科学部

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人修道学園
令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 学長室総合企画課

職名・氏名 課長・栗原^{クリハラ}伸治^{シンジ}

電話番号 082-830-1102

（夜間） 082-830-1102

F A X 082-830-1324

e-mail kikaku@js.shudo-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

健康科学部

<心理学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	22
4. 既設大学等の状況	23
5. 教員組織の状況	25
6. 附帯事項等に対する履行状況等	52
7. その他全般的事項	55

<健康栄養学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	58
2. 授業科目の概要	62
3. 施設・設備の整備状況、経費	77
4. 既設大学等の状況	78
5. 教員組織の状況	80
6. 附帯事項等に対する履行状況等	103
7. その他全般的事項	105

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人修道学園

(2) 大学名

広島修道大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒731-3195

広島県広島市安佐南区大塚東一丁目1番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ハヤシ マサオ) 林 正夫 (平成12年7月1日)		
学長	(イチカワ タイチ) 市川 太一 (平成22年4月1日)	(ミカミ タカノリ) 三上 貴教 (平成30年4月1日)	任期満了による交代 (平成30年4月1日) (30)
学部長	(マスタ ヒサシ) 増田 尚史 (平成29年4月1日)	(フルミツ イサト) 古満 伊里 (平成30年4月1日)	任期満了による交代 (平成30年4月1日) (30)
学科長等	(フルミツ イサト) 古満 伊里 (平成29年4月1日)	(カワモト ハジメ) (コダマ エミ) 河本一肇 児玉 恵美 (平成30年4月1日) (平成31年4月1日)	任期満了による交代 (平成31年4月1日) (元)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください）。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
健康科学部 心理学科 学士(心理学)	文学関係	4年	80人	- 年次人	320人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 (-) [-]	人 (-) [-]	80 (-) [-]	人 (-) [-]	80 (-) [-]	人 (-) [-]	80 (-) [-]	人 (-) [-]	1.09倍	- 倍	
志願者数	(-) [-]	(-) [-]	770 (-) [-]	(-) [-]	651 (-) [2]	(-) [-]	725 (-) [-]	(-) [-]			
受験者数	(-) [-]	(-) [-]	757 (-) [-]	(-) [-]	644 (-) [2]	(-) [-]	716 (-) [-]	(-) [-]			
合格者数	(-) [-]	(-) [-]	241 (-) [-]	(-) [-]	246 (-) [2]	(-) [-]	268 (-) [-]	(-) [-]			
B 入学者数	(-) [-]	(-) [-]	85 (-) [-]	(-) [-]	84 (-) [2]	(-) [-]	95 (-) [-]	(-) [-]			
入学定員超過率 B/A			1.06			1.05					

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	— [—] (—)	— [—] (—)	85 [—] (—)	— [—] (—)	84 [2] (—)	— [—] (—)	95 [—] (—)	— [—] (—)	
2年次	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	84 [—] (—)	— [—] (—)	84 [2] (—)	— [—] (—)	
3年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	84 [—] (—)	— [—] (—)	
4年次	/		/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
計	— [—] (—)	— [—] (—)	85 [—] (—)	— [—] (—)	168 [—] (—)	— [—] (—)	263 [—] (—)	— [—] (—)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成27年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
平成28年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
平成29年度	85 人	0 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
平成30年度	169 人	1 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	1 人	0 人	就職(1名)
			平成30年度	0 人	0 人	
令和元年度	263 人	0 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合 計		1 人		1 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{\quad}{\quad} = \boxed{\quad} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{\quad}{\quad} = \boxed{\quad} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{85} = \boxed{0} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{169} = \boxed{0.59} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{263} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<健康科学部 心理学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通科目	修大基礎講座	1①		2		2	2	1				
	初年次セミナー	1②		2		1						
	情報処理入門Ⅰ	1前	2								2	
	情報処理入門Ⅱ(情報と表現)	1・2通		2							6	
	情報処理入門Ⅱ(情報と分析)	1・2通		2							6	
	大学生活とキャリア形成	2前		2							3	
	地域イノベーション論	1・2通		2							1	
	地域コミュニケーション論	1・2通		2							1	
	ひろしま未来協創プロジェクト(都心のコミュニケーション)	2・3前		2							1	
	ひろしま未来協創プロジェクト(中山間地域のコミュニケーション)	2・3前		2							1	
	ひろしま未来協創プロジェクト(都心のイノベーション)	2・3後		2							1	
	ひろしま未来協創プロジェクト(中山間地域のイノベーション)	2・3後		2							1	
	ひろしま未来協創特講(ファシリテーション入門)	1・2①		1							1	
	ひろしま未来協創特講(ワークショップ・スキル入門)	1・2②		1							1	
	ひろしま未来協創特講(発見・デザイン・中山間)	1・2④		1							1	
	ひろしま未来協創特講(発見・デザイン・都心)	1・2①		1							1	
	広島学(広島・ヒロシマで学ぶ、広島・ヒロシマを学ぶ)	2前		2							4	
小計(17科目)	—											
留学生教育科目	日本語Ⅰ	1・2前		1							1	
	日本語Ⅱ	1・2後		1							1	
	日本語Ⅲ	1・2前		1							1	
	日本語Ⅳ	1・2後		1							1	
	日本語Ⅴ	1・2前		1							1	
	日本語Ⅵ	1・2後		1							1	
	日本語Ⅶ	1・2前		1							1	
	日本語Ⅷ	1・2後		1							1	
	アカデミック日本語	1・2通		2							1	
	ビジネス日本語	1・2通		2							1	
	日本研究	1・2通		2							1	
小計(11科目)	—											
留学支援教育科目	留学スタートアップ	1・2通		1							1	
	留学英語入門	1・2通		2							1	
	英語圏留学入門	1・2通		1							1	
	アジア圏留学入門	1・2通		1							1	
	外国語としての日本語	1・2通		2							1	
	留学フォローアップ	1・2通		1							1	
	グローバル特講Ⅰ	1通		2							1	
	グローバル特講Ⅱ	1通		1							1	
	グローバル特講Ⅲ	2通		2							1	
	グローバル特講Ⅳ	2通		2							1	
	海外研修A(海外文化理解/全席・国立研修)	1~4		1			1				1	
	海外研修B(AIO/Conversational English I)	1~4		2							1	
	海外研修B(AIO/Conversational English II)	1~4		2							1	
	海外研修B(AIO/New Zealand Studies)	1~4		2							1	
	海外研修B(AIO/Writing English I)	1~4		2							1	
	海外研修B(AIO/Writing English II)	1~4		2							1	
	海外研修B(OOOU/General English Topic 1)	1~4		2			1				1	
海外研修B(OOOU/General English Topic 2)	1~4		2							1		
海外研修B(Falcolas/American Culture)	1~4		2							1		
海外研修B(Falcolas/United Nations)	1~4		2							1		
海外研修B(PSU/Resilibility and Service Learning)	1~4		2							1		
海外研修B(RMIT/Listening 1)	1~4		2				1			1		
海外研修B(RMIT/Reading 1)	1~4		2				1			1		

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通科目	修大基礎講座	1①		2			1					
	初年次セミナー	1②		2			2					
	情報処理入門Ⅰ	1前	2								2	
	情報処理入門Ⅱ(情報と表現)	1・2通		2							5	
	情報処理入門Ⅱ(情報と分析)	1・2通		2							5	
	情報応用(情報セキュリティ)	2・3通		2							1	
	大学生生活とキャリア形成	2前		2							3	
	広島学(広島・ヒロシマで学ぶ、広島・ヒロシマを学ぶ)	2前		2							4	
	小計(8科目)	—										
	留学生教育科目	日本語Ⅰ	1・2前		1							3
		日本語Ⅱ	1・2後		1							3
		日本語Ⅲ	1・2前		1							3
		日本語Ⅳ	1・2後		1							3
		日本語Ⅴ	1・2前		1							3
		日本語Ⅵ	1・2後		1							3
		日本語Ⅶ	1・2前		1							3
		日本語Ⅷ	1・2後		1							3
アカデミック日本語		1・2前		2							1	
ビジネス日本語		1・2後		2							1	
日本研究(日本の政治)		1・2前		2							1	
日本研究(日本の民俗)		1・2後		2							1	
日本研究(日本の経済)		1・2後		2							1	
小計(13科目)	—											
留学支援教育科目	留学スタートアップ	1・2通		1							1	
	留学英語入門	1・2通		2							1	
	英語圏留学入門	1・2通		1							2	
	アジア圏留学入門	1・2通		1							1	
	外国語としての日本語	1・2通		2							1	
	留学フォローアップ	1・2通		1							1	
	グローバル特講Ⅰ	1前		2							3	
	グローバル特講Ⅱ	1④		1							1	
	グローバル特講Ⅲ	2前		1							1	
	グローバル特講Ⅳ	2通		2							1	
	海外研修A(海外文化理解/全席・国立研修)	1~4		1			1				1	
	海外研修B(AIO/Conversational English I)	1~4		2							1	
	海外研修B(AIO/Conversational English II)	1~4		2							1	
	海外研修B(AIO/New Zealand Studies)	1~4		2							1	
	海外研修B(AIO/Writing English I)	1~4		2							1	
	海外研修B(AIO/Writing English II)	1~4		2							1	
	海外研修B(OOOU/General English Topic 1)	1~4		2			1				1	
	海外研修B(OOOU/General English Topic 2)	1~4		2							1	
	海外研修B(Falcolas/American Culture)	1~4		2							1	
	海外研修B(Falcolas/United Nations)	1~4		2							1	
	海外研修B(PSU/Resilibility and Service Learning)	1~4		2							1	
	海外研修B(RMIT/Listening 1)	1~4		2				1			1	
	海外研修B(RMIT/Reading 1)	1~4		2				1			1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
	言語と文化Ⅲ(スペイン)	2前		2							1
	言語と文化Ⅳ(スペイン)	2後		2							1
	言語と文化Ⅰ(中国)	2前		2							1
	言語と文化Ⅱ(中国)	2後		2							1
	言語と文化Ⅲ(中国)	2前		2							1
	言語と文化Ⅳ(中国)	2後		2							1
	言語と文化Ⅰ(韓国・朝鮮)	2前		2							2
	言語と文化Ⅱ(韓国・朝鮮)	2後		2							2
	言語と文化Ⅲ(韓国・朝鮮)	2前		2							1
	言語と文化Ⅳ(韓国・朝鮮)	2後		2							1
	上級外国語Ⅰ(中国語)	2前		2							1
	上級外国語Ⅱ(中国語)	2後		2							1
	上級外国語Ⅰ(韓国・朝鮮語)	2前		2							1
	上級外国語Ⅱ(韓国・朝鮮語)	2後		2							1
	小計(44科目)	—									
保健体育科目	健康科学論	1・2後		2							2
	運動科学論	1・2後		2							1
	健康科学演習	1・2前		2							1
	運動科学演習	1・2後		2							1
	健康スポーツ実習(エアロビクス)	1・2後		1							1
	健康スポーツ実習(ゴルフ)	1・2通		1							2
	健康スポーツ実習(サッカー)	1・2通		1							2
	健康スポーツ実習(ソフトバレーボール)	1・2前		1							1
	健康スポーツ実習(ソフトボール)	1・2通		1							2
	健康スポーツ実習(卓球)	1・2前		1							2
	健康スポーツ実習(テニス)	1・2通		1							2
	健康スポーツ実習(ニュースポーツ)	1・2後		1							1
	健康スポーツ実習(バスケットボール)	1・2通		1							1
	健康スポーツ実習(バドミントン)	1・2後		1							3
	健康スポーツ実習(ボディアワーク)	1・2後		1							1
	健康スポーツ実習(Shudo A P)	1・2後		1							1
	健康スポーツ実習(アダブタッド・スポーツ)	1・2後		1							2
	健康スポーツ実習(フットサル)	1・2通		1							1
	運動スポーツ実習(フットサル)	1・2通		1							1
	運動スポーツ実習(フットサル)	1・2通		1							1
	運動スポーツ実習(エアロビクス)	1・2後		1							1
	運動スポーツ実習(ゴルフ)	1・2通		1							2
	運動スポーツ実習(サッカー)	1・2通		1							2
	運動スポーツ実習(ソフトボール)	1・2通		1							3
	運動スポーツ実習(卓球)	1・2通		1							2
	運動スポーツ実習(ダンス)	1・2前		1							1
	運動スポーツ実習(テニス)	1・2通		1							2
	運動スポーツ実習(バスケットボール)	1・2通		1							1
	運動スポーツ実習(バドミントン)	1・2通		1							2
	運動スポーツ実習(バレーボール)	1・2通		1							1
	運動スポーツ実習(フットサル)	1・2通		1							1
	野外運動実習Ⅰ(キャンプ)	1・2前		1							3
	野外運動実習Ⅰ(スキー)	1・2後		1							3
	野外運動実習Ⅱ(キャンプ発展)	1・2前		1							1
野外運動実習Ⅱ(スキー発展)	1・2後		1							1	
小計(34科目)	—										
健康科学部総合科目	健康科学統計法	1①・2		2			1	1			
	健康心理学	1・2②		2			1				
	食行動科学	2・3①		2			1				
	カウンセリング心理学	2・3②		2			1				
	栄養と健康	1前		2							1
	基礎化学	1前		2							1
	食育入門	3前		2							1
	地域食文化論	3後		2							1
	スポーツ文化論	1・2前		2							1
	コミュニケーション論A	2・3前		2							1
	コミュニケーション論B	2・3後		2							1
	スポーツ社会学	2・3前		2							1
	健康科学部特別講義(生命と倫理)	1後		2							1
	インターンシップ	2・3通		2		1					2
イノベーション・プロジェクトⅠ(地域課題研究2019)	3・4通		2							1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
	言語と文化Ⅲ(スペイン)	2前		2							1
	言語と文化Ⅳ(スペイン)	2後		2							1
	言語と文化Ⅰ(中国)	2前		2							1
	言語と文化Ⅱ(中国)	2後		2							1
	言語と文化Ⅲ(中国)	2前		2							1
	言語と文化Ⅳ(中国)	2後		2							1
	言語と文化Ⅰ(韓国・朝鮮)	2前		2							2
	言語と文化Ⅱ(韓国・朝鮮)	2後		2							2
	言語と文化Ⅲ(韓国・朝鮮)	2前		2							1
	言語と文化Ⅳ(韓国・朝鮮)	2後		2							1
	上級外国語Ⅰ(ドイツ語)	2前		2							1
	上級外国語Ⅱ(ドイツ語)	2後		2							1
	上級外国語Ⅰ(フランス語)	2前		2							1
	上級外国語Ⅱ(フランス語)	2後		2							1
	上級外国語Ⅰ(スペイン語)	2前		2							1
	上級外国語Ⅱ(スペイン語)	2後		2							1
	上級外国語Ⅰ(中国語)	2前		2							1
	上級外国語Ⅱ(中国語)	2後		2							1
	上級外国語Ⅰ(韓国・朝鮮語)	2前		2							1
	上級外国語Ⅱ(韓国・朝鮮語)	2後		2							1
	小計(50科目)	—									
保健体育科目	健康科学論	1・2通		2							2
	運動科学論	1・2後		2							1
	健康科学演習	1・2後		2							1
	運動科学演習	1・2後		2							1
	健康スポーツ実習(エアロビクス)	1・2後		1							1
	健康スポーツ実習(ゴルフ)	1・2前		1							2
	健康スポーツ実習(サッカー)	1・2後		1							1
	健康スポーツ実習(ソフトバレーボール)	1・2通		1							1
	健康スポーツ実習(ソフトボール)	1・2前		1							1
	健康スポーツ実習(卓球)	1・2通		1							3
	健康スポーツ実習(テニス)	1・2通		1							3
	健康スポーツ実習(ニュースポーツ)	1・2後		1							1
	健康スポーツ実習(バスケットボール)	1・2通		1							1
	健康スポーツ実習(バドミントン)	1・2通		1							1
	健康スポーツ実習(ボディアワーク)	1・2後		1							1
	健康スポーツ実習(Shudo A P)	1・2後		1							1
	健康スポーツ実習(アダブタッド・スポーツ)	1・2後		1							2
	健康スポーツ実習(フットサル)	1・2通		1							1
	運動スポーツ実習(フットサル)	1・2通		1							1
	運動スポーツ実習(フットサル)	1・2通		1							1
	運動スポーツ実習(エアロビクス)	1・2後		1							1
	運動スポーツ実習(ゴルフ)	1・2通		1							2
	運動スポーツ実習(サッカー)	1・2通		1							2
	運動スポーツ実習(ソフトボール)	1・2後		1							2
	運動スポーツ実習(卓球)	1・2通		1							2
	運動スポーツ実習(ダンス)	1・2前		1							1
	運動スポーツ実習(テニス)	1・2通		1							3
	運動スポーツ実習(バスケットボール)	1・2通		1							1
	運動スポーツ実習(バドミントン)	1・2通		1							2
	運動スポーツ実習(バレーボール)	1・2通		1							1
	運動スポーツ実習(フットサル)	1・2通		1							1
	運動スポーツ実習(ボディアワーク)	1・2前		1							1
	運動スポーツ実習(ニュースポーツ)	1・2後		1							1
	運動スポーツ実習(スポーツフィジシャンの)	1・2通		1							2
野外運動実習Ⅰ(キャンプ)	1・2前		1							2	
野外運動実習Ⅰ(スキー)	1・2後		1							2	
野外運動実習Ⅱ(キャンプ発展)	1・2前		1							1	
野外運動実習Ⅱ(スキー発展)	1・2後		1							1	
小計(37科目)	—										
健康科学部総合科目	心理学統計法Ⅰ	1①③		2			1				
	健康・医療心理学	1・2②		2			1				
	食行動科学	2・3②		2			1				
	心理学的支援法	2・3②		2			1				
	栄養と健康	1前		2							1
	基礎化学	1前		2							1
	食育入門	3前		2							1
	地域食文化論	3後		2							1
	スポーツ文化論	1・2前		2							1
	コミュニケーション論A	2・3前		2							1
	コミュニケーション論B	2・3後		2							1
	スポーツ社会学	2・3前		2							1
	健康科学部特別講義(生命と倫理)	1後		2							1
	インターンシップ	2・3通		2		1					2

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門発展科目	心理学特殊実習	2②	1			6	1					
	心理学実習Ⅲ	3前	1			8	3					
	心理学実習Ⅳ	3後	1			8	3					
	心理臨床・実践職能論	3・4①		2		1						
	心理統計法Ⅲ	3・4①		2		1						
	演習Ⅰ	3前	2			8	3					
	演習Ⅱ	3後	2			8	3					
	演習Ⅲ	4前	2			8	3					
	演習Ⅳ	4後	2			8	3					
	卒業論文	4通	4			8	3					
小計(10科目)	—											
自由選択科目	法律学概論	1・2後			2							4
	政治学概論	2・3前			2							1
	教育政策論	2・3前			2							1
	国際法	2・3後			4							1
	国際政治学Ⅰ	2・3前			2							1
	国際政治学Ⅱ	2・3後			2							1
	現代社会学	1・2後			2							1
	現代経済入門Ⅰ	1前			2							1
	現代経済入門Ⅱ	1後			2							1
	生涯学習論Ⅰ	1・2前			2							1
	生涯学習論Ⅱ	1・2後			2							1
	社会教育計画Ⅰ	1・2前			2							1
	社会教育計画Ⅱ	1・2後			2							1
	哲学概論Ⅰ	1前			2							1
	哲学概論Ⅱ	1・2後			2							1
	倫理学概論Ⅰ	1前			2							1
	倫理学概論Ⅱ	1・2後			2							1
小計(17科目)	—											
教職に関する科目	教職入門(中等)	1前			2							1
	教育心理学(中等)	2・3後			2	1						1
	教育原理(中等)	1前			2							1
	教育制度論(中等)	1後			2							1
	中等社会科教育法A	3前			2							1
	社会科・公民科教育法A	3後			2							1
	中等道徳教育論	2後			2							1
	中等特別活動論	2後			2							1
	中等教育方法論	2前			2							1
	中等生徒・進路指導論	2前			2							1
	中等教育相談	2後			2							1
	中等教育実習事前事後指導	3・4通			1							2
	中等教育実習Ⅰ	3通			2							1
	中等教育実習Ⅱ	4通			2							1
教職実践演習(中・高)	4後			2							3	
差別問題論	1・2前			2							1	
人権教育論	1後			2							1	
小計(17科目)	—											
授業格課程関連	憲法Ⅰ	1・2前			2							2
	憲法Ⅱ	1・2後			2							2
	社会教育実習	3通			2							1
小計(3科目)	—											
合計(362科目)	—											
卒業要件及び履修方法												
必修科目30単位、専門科目の選択科目から78単位、修道スタンダード科目から6単位以上、共通教育科目から22単位以上を修得し、124単位以上修得すること。(履修科目の登録上限44単位(年間))												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門発展科目	心理学特殊実習	2②	1			6	1					
	心理学応用実習Ⅰ	3前	1			10	1					3
	心理学応用実習Ⅱ	3後	1			10	1					3
	公認心理師の職責	3・4①		2		1						
	心理統計法Ⅳ	3・4①		2		1						
	演習Ⅰ	3前	2			10	1					
	演習Ⅱ	3後	2			10	1					
	演習Ⅲ	4前	2			8	3					
	演習Ⅳ	4後	2			8	3					
	心理演習 心理実習	3・4前		2		2						
卒業論文	4前		2		2							
卒業論文	4通	4			8	3						
小計(12科目)	—											
自由選択科目	法律学概論(科目区分移動)	1・2後			2							4
	政治学概論(科目区分移動)	2・3前			2							1
	教育政策論	2・3前			2							1
	国際法(科目区分移動)	2・3後			4							1
	国際政治学Ⅰ(科目区分移動)	2・3前			2							1
	国際日本学	2・3③			2							1
	現代社会学	1・2後			2							1
	現代経済入門Ⅰ(科目区分移動)	1前			2							1
	現代経済入門Ⅱ(科目区分移動)	1後			2							1
	生涯学習論Ⅰ	1・2前			2							1
	生涯学習論Ⅱ	1・2後			2							1
	社会教育計画Ⅰ	1・2前			2							1
	社会教育計画Ⅱ	1・2後			2							1
	哲学概論Ⅰ(科目区分移動)	1前			2							1
	哲学概論Ⅱ(科目区分移動)	1・2後			2							1
	倫理学概論Ⅰ(科目区分移動)	1前			2							1
倫理学概論Ⅱ(科目区分移動)	1・2後			2							1	
小計(16科目)	—											
教職に関する科目	教職入門(中等)	1前			2							1
	教育心理学(中等)	2・3前			2	1						1
	教育原理(中等)	1前			2							1
	教育制度論(中等)	1後			2							1
	中等社会科教育法A	3前			2							1
	社会科・公民科教育法A	3後			2							1
	中等道徳教育論	2後			2							1
	中等特別活動論	2後			2							1
	中等教育方法論	2後			2							1
	中等生徒・進路指導論	2後			2							1
	中等教育相談	2後			2							1
	中等教育実習事前事後指導	3・4通			1							1
	中等教育実習Ⅰ	3通			2							1
	中等教育実習Ⅱ	4通			2							1
教職実践演習(中・高)	4後			2							1	
差別問題論	1・2前			2							1	
人権教育論	1後			2							1	
小計(17科目)	—											
授業格課程関連	憲法Ⅰ	1・2前			2							2
	憲法Ⅱ	1・2後			2							2
	社会教育実習	3通			2							1
小計(3科目)	—											
合計(434科目)	—											
卒業要件及び履修方法												
必修科目30単位、専門科目の選択科目から78単位、修道スタンダード科目から6単位以上、共通教育科目から22単位以上を修得し、124単位以上修得すること。(履修科目の登録上限44単位(年間))												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教員	准教授	講師	助教	助手		
	総合教養講義a(大気環境問題と生態系)	1・2通		2								1
	総合教養講義a(生物多様性保全の環境問題)	1・2通		2								1
	総合教養講義a(宇宙と環境科学)	1・2通		2								1
	総合教養講義a(自然環境と災害) (未開講)	1・2前		2								1
	総合教養講義a(市民と行政法)	1・2後		2								1
	総合教養講義b(芸術文化学)	2通		2								1
	総合教養講義b(江戸時代の服飾)	2後		2								1
	総合教養講義b(和紙)	2後		2								1
	総合教養講義b(メディア論)	2後		2								1
	総合教養講義b(社会保障論)	2後		2								1
	総合教養講義b(労働問題と法)	2後		2								1
	総合教養講義b(国際理解)	2前		2								1
	総合教養講義b(生命情報論)	2前		2								1
	総合教養コース(世界の言語と文化)	1・2前		2								12
	総合教養コース(情報化社会と人間)	1・2通		2								4
	小計(88科目)	一										
外国語科目 英語科目	英語リスニングⅠ	1前		1								4
	英語リスニングⅢ	1前		1								1
	英語リスニングⅤ	1前		1								1
	英語リスニングⅡ	1後		1								4
	英語リスニングⅣ	1後		1								1
	英語リスニングⅥ	1後		1								1
	英語リーディングⅠ	1前		1								4
	英語リーディングⅢ	1前		1								1
	英語リーディングⅤ	1前		1								1
	英語リーディングⅡ	1後		1								4
	英語リーディングⅣ	1後		1								1
	英語リーディングⅥ	1後		1								1
	実用英語実習Ⅰ	1・2前		1								1
	実用英語実習Ⅱ	1・2後		1								1
	英語ライティング研究Ⅰ	1・2前		2								1
	英語ライティング研究Ⅱ	1・2後		2								1
	英語ライティング研究Ⅲ (未開講)	1・2前		2								1
	英語ライティング研究Ⅳ (未開講)	1・2後		2								1
	英語読解研究Ⅰ	1・2前		2								3
	英語読解研究Ⅱ	1・2後		2								3
	英語読解研究Ⅲ	1・2前		2								1
	英語読解研究Ⅳ	1・2後		2								1
	英語聴解研究Ⅰ	1・2前		2								2
	英語聴解研究Ⅱ	1・2後		2								2
	英語聴解研究Ⅲ	1・2前		2								1
	英語聴解研究Ⅳ	1・2後		2								1
	英語コミュニケーション研究Ⅰ	1・2前		2								2
	英語コミュニケーション研究Ⅱ	1・2後		2								2
	英語コミュニケーション研究Ⅲ	1・2前		2								1
	英語コミュニケーション研究Ⅳ	1・2後		2								1
	英語コミュニケーション研究Ⅴ	1・2前		2								1
	英語コミュニケーション研究Ⅵ	1・2後		2								1
英語語法研究Ⅰ	1・2前		2								2	
英語語法研究Ⅱ	1・2後		2								2	
英語語法研究Ⅲ	1・2前		2								1	
英語語法研究Ⅳ	1・2後		2								1	
資格英語研究Ⅰ	1・2前		2								5	
資格英語研究Ⅱ	1・2後		2								5	
資格英語研究Ⅲ	1・2前		2								2	
資格英語研究Ⅳ	1・2後		2								2	
資格英語研究Ⅴ (未開講)	1・2前		2								1	
資格英語研究Ⅵ	1・2後		2								1	
英語プレゼンテーション研究Ⅰ	1・2前		2								1	
英語プレゼンテーション研究Ⅱ	1・2後		2								1	
小計(44科目)	一											
外国語科目 初修外国語科目	ドイツ語Ⅰ	1前		1								2
	ドイツ語Ⅱ	1後		1								2
	ドイツ語Ⅲ	1前		1								2
	ドイツ語Ⅳ	1後		1								2
	フランス語Ⅰ	1前		1								1
	フランス語Ⅱ	1後		1								1
	フランス語Ⅲ	1前		1								1
	フランス語Ⅳ	1後		1								1
	スペイン語Ⅰ	1前		1								1
	スペイン語Ⅱ	1後		1								1
	スペイン語Ⅲ	1前		1								1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教員	准教授	講師	助教	助手		
	総合教養講義a(大気環境問題と生態系)	1・2通		2								1
	総合教養講義a(生物多様性保全の環境問題)	1・2通		2								1
	総合教養講義a(宇宙と環境科学)	1・2後		2								1
	総合教養講義a(自然環境と災害) (未開講)	1・2前		2								1
	総合教養講義a(市民と行政法)	1・2後		2								1
	総合教養講義b(芸術文化学)	2前		2								1
	総合教養講義b(江戸時代の服飾) (未開講)	2後		2								1
	総合教養講義b(和紙)	2後		2								1
	総合教養講義b(メディア論)	2前		2								1
	総合教養講義b(社会保障論)	2後		2								1
	総合教養講義b(労働問題と法)	2後		2								1
	総合教養講義b(国際理解)	2前		2								1
	総合教養講義b(生命情報論) (未開講)	2前		2								1
	総合教養コース(世界の言語と文化)	1・2前		2								12
	総合教養コース(情報化社会と人間)	1・2前		2								2
	小計(88科目)	一										
外国語科目 英語科目	英語リスニングⅠ	1前		1								3
	英語リスニングⅢ	1前		1								1
	英語リスニングⅤ	1前		1								1
	英語リスニングⅡ	1後		1								3
	英語リスニングⅣ	1後		1								1
	英語リスニングⅥ	1後		1								1
	英語リーディングⅠ	1前		1								3
	英語リーディングⅢ	1前		1								1
	英語リーディングⅤ	1前		1								1
	英語リーディングⅡ	1後		1								3
	英語リーディングⅣ	1後		1								1
	英語リーディングⅥ	1後		1								1
	実用英語実習Ⅰ	1・2前		1								1
	実用英語実習Ⅱ	1・2後		1								1
	英語ライティング研究Ⅰ	1・2前		2								2
	英語ライティング研究Ⅱ	1・2後		2								2
	英語ライティング研究Ⅲ	1・2前		2								2
	英語ライティング研究Ⅳ	1・2後		2								2
	英語読解研究Ⅰ	1・2前		2								3
	英語読解研究Ⅱ	1・2後		2								3
	英語読解研究Ⅲ	1・2前		2								1
	英語読解研究Ⅳ	1・2後		2								1
	英語聴解研究Ⅰ	1・2前		2								2
	英語聴解研究Ⅱ	1・2後		2								2
	英語聴解研究Ⅲ	1・2前		2								1
	英語聴解研究Ⅳ	1・2後		2								1
	英語コミュニケーション研究Ⅰ	1・2前		2								2
	英語コミュニケーション研究Ⅱ	1・2後		2								2
	英語コミュニケーション研究Ⅲ	1・2前		2								1
	英語コミュニケーション研究Ⅳ	1・2後		2								1
	英語コミュニケーション研究Ⅴ	1・2前		2								1
	英語コミュニケーション研究Ⅵ	1・2後		2								1
英語語法研究Ⅰ	1・2前		2								2	
英語語法研究Ⅱ	1・2後		2								2	
英語語法研究Ⅲ	1・2前		2								1	
英語語法研究Ⅳ	1・2後		2								1	
資格英語研究Ⅰ	1・2前		2								6	
資格英語研究Ⅱ	1・2後		2								6	
資格英語研究Ⅲ	1・2前		2								2	
資格英語研究Ⅳ	1・2後		2								2	
資格英語研究Ⅴ	1・2前		2								1	
資格英語研究Ⅵ	1・2後		2								1	
英語プレゼンテーション研究Ⅰ	1・2前		2								1	
英語プレゼンテーション研究Ⅱ	1・2後		2								1	
小計(44科目)	一											
外国語科目 初修外国語科目	ドイツ語Ⅰ	1前		1								2
	ドイツ語Ⅱ	1後		1								2
	ドイツ語Ⅲ	1前		1								2
	ドイツ語Ⅳ	1後		1								2
	フランス語Ⅰ	1前		1								1
	フランス語Ⅱ	1後		1								1
	フランス語Ⅲ	1前		1								1
	フランス語Ⅳ	1後		1								1
	スペイン語Ⅰ	1前		1								1
	スペイン語Ⅱ	1後	</									

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
授 業 格 課 程 目 録 関 連	憲法Ⅰ	1・2前			2							2
	憲法Ⅱ	1・2後			2							2
	社会教育実習	3通			2							1
	小計(3科目)	—										
合計(392科目)		—										
卒業要件及び履修方法												
必修科目30単位、専門科目の選択科目から78単位、修道スタンダード科目から6単位以上、共通教育科目から22単位以上を修得し、124単位以上修得すること。(履修科目の登録上限44単位(年間))												

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
授 業 格 課 程 目 録 関 連	憲法Ⅰ	1・2前			2							2
	憲法Ⅱ	1・2後			2							2
	社会教育実習	3通			2							1
	小計(3科目)	—										
合計(383科目)		—										
卒業要件及び履修方法												
必修科目30単位、専門科目の選択科目から78単位、修道スタンダード科目から6単位以上、共通教育科目から22単位以上を修得し、124単位以上修得すること。(履修科目の登録上限44単位(年間))												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成29年度】

- ・グローバル科目の再編により、担当者数を変更。
- ・留学生教育科目のうち、「日本研究」に詳細科目名を設定。
- ・留学支援教育科目に、留学先で取得した単位の認定科目として「海外研修A～E」を追加。
- ・国際共修科目について、詳細科目名を設定。
- ・教養科目の担当者の時間割編成により「西洋文学」「西洋史」「経済学」「総合教養講義a(家族と法)」「総合教養コース(情報化社会と人間)」の担当者数を変更。
- ・外国語科目英語科目については、入学した学生のレベルに応じたクラス設定を行うため、担当者数を変更、それに伴い、全学的な英語科目の担当者数を変更。
- ・初修外国語の上級クラスを充実させるため、ドイツ語、フランス語、スペイン語に上級科目を設置。それにより、クラス担当者数を変更。
- ・保健体育科目の前年度の受講希望者により、クラスを再編成したため、担当者数を変更。
- ・教職課程認定申請時の担当局からの指導により、自由選択科目から主専攻科目(心理学関連科目)へ10科目移動。
- ・担当者の昇任により、「発達心理学」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」へ変更。

【平成30年度】

- ・主専攻科目充実のため、「修大基礎講座」の「教授2、准教授2、講師1」から「教授2」に変更。
- ・少人数クラスにするため「情報処理入門Ⅰ」の担当者を「兼任2」から「兼任3」に変更。
- ・交換留学生のクラス充実のため「日本語Ⅱ」「日本語Ⅴ」「日本語Ⅷ」のクラスを増設、「兼任2」から「兼任3」に変更。
- ・グローバルコース履修者への授業充実を図るため、「グローバル特講Ⅰ」を「兼任1」から「兼任1、兼任1」に変更。
- ・兼任の退職により、「芸術学」「地理学」が「兼任1、兼任1」から「兼任1」に変更。
- ・兼任の採用により、「経済学」「兼任2」から「兼任2、兼任1」に変更、教養講義(現代経済学)が「兼任1」から「兼任1、兼任1」に変更。
- ・科目担当者の時間割調整により、「総合教養コース(情報化社会と人間)」が「兼任4」から「兼任2」に変更。
- ・外国語科目英語科目については、入学した学生のレベルに応じたクラス設定を行うため、担当者数を変更、それに伴い、全学的な英語科目の担当者数を変更。
- ・保健体育科目の前年度の受講希望者により、クラスを再編成したため、担当者数を変更。
- ・全学的な教職課程履修者の受講者対応のため、「現代経済入門Ⅰ」「現代経済入門Ⅱ」の担当者を「兼任2」から「兼任3」に変更。
- ・公認心理師資格課程認定のため、科目名を次の通り変更。
「健康科学統計法」⇒「心理学統計法Ⅰ」、「健康心理学」⇒「健康・医療心理学」、「[カウンセリング心理学]」⇒「心理学的支援法」、「心理統計法Ⅰ」⇒「心理学統計法Ⅱ」、「心理学実習Ⅰ」⇒「心理学実験」、「心理学実習Ⅱ」⇒「心理学調査実習」、「臨床心理学」⇒「臨床心理学概論」、「医学概論」⇒「人体の構造及び機能疾病」、「[障がい者(児)心理学]」⇒「障害者・障害児心理学」、「心理査定論」⇒「心理的アセスメント」、「人格心理学」⇒「感情・人格心理学」、「犯罪心理学」⇒「司法・犯罪心理学」、「学校臨床心理学」⇒「教育・学校心理学」、「社会心理学」⇒「社会・集団・家族心理学」、「心理統計法Ⅱ」⇒「心理学統計法Ⅲ」、「学校教育心理学」⇒「青年心理学」、「産業心理学」⇒「産業・組織心理学」、「認知心理学」⇒「知覚・認知心理学」、「生理心理学」⇒「神経・生理心理学」、「心理言語学」⇒「学習・心理言語学」、「心理学実習Ⅲ」⇒「心理学応用実習Ⅰ」、「心理学実習Ⅳ」⇒「心理学応用実習Ⅱ」、「心理臨床・実践職能論」⇒「公認心理師の職責」
【追加科目】「福祉心理学」「精神疾患とその治療」「関係行政論」「心理演習」「心理実習」
- ・再履修生対応、授業充実のため、「心理学実験」「心理調査実習」の「兼任1」を「兼任3」に変更。
- ・昇任により、「心理学統計法Ⅰ」「心理学統計法Ⅲ」が「准教授1、講師1」から「教授1、講師1」に変更。「心理学基礎演習」が「教授2、准教授1」から「教授3、准教授1」に、「乳幼児心理学」を「准教授1」から「教授1」に変更。「心理調査概論」「応用心理学」「集団力学」が「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・「心理学実験」に「教授1」を追加。
- ・「発達臨床心理学」「福祉心理学」を「兼任1」から「准教授1」に変更。
- ・担当者調整、昇任により、「心理学キーワードB」を「心理学キーワードA」と一致させ、「准教授2」から「教授1」に変更。
- ・専任退職により、「発達臨床心理学」を「教授1」から「准教授1」に変更。

【令和元年度】

- ・時間割調整により「修大基礎講座」の「教授2」「准教授2」「講師1」から「教授1」に変更。
- ・在外研究による引継ぎにより「初年次セミナー」の「教授1」から「教授2」に変更。
- ・クラス数調整により「情報処理入門Ⅰ」を「兼任3」から「兼任2」、情報処理入門Ⅱ(情報と表現)を「兼任4」から「兼任5」に変更。
- ・科目充実のため「グローバル特講Ⅰ」の「兼任・兼任2」を「兼任3」に変更。
- ・海外セミナーに担当者を割り当てたため「海外研修A」「海外研修B」「海外研修C」「海外研修D」「海外研修E」に「兼任1」を追加した。
- ・担当者の体調により「多文化交流プロジェクト(地方の魅力)」を「兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・時間割調整により「心理学」の「講師1」から「教授2」に変更。
- ・授業時間割の調整により「地理学」の「兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・時間割調整により「教養講義(現代経済学)」の「兼任2」から「兼任1」に変更。
- ・クラス数調整により「英語ライティング研究Ⅰ」「英語ライティング研究Ⅱ」の「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・クラス数調整により「ドイツ語Ⅰ～Ⅳ」「中国語Ⅰ～Ⅳ」「韓国・朝鮮語Ⅰ～Ⅳ」を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・授業時間割の調整により「健康科学論」の「兼任・兼任3」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・クラス数調整により「健康スポーツ実習(ソフトボール)」を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」、健康スポーツ実習(卓球)を「兼任・兼任2」を「兼任・兼任3」、「運動スポーツ実習(ゴルフ)」を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・科目履修者増のため「地域援助実践体験」を「教授3」から「教授7」に変更。
- ・時間割調整のため「臨床心理学概論」を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・科目充実のため「精神疾患とその治療」を「兼任・兼任1」から「教授1」「兼任・兼任2」に変更。
- ・科目充実のため「関係行政論」を「教授1」から「教授2」に変更。
- ・科目充実のため「心理学応用実習Ⅰ」「心理学応用実習Ⅱ」に「兼任3」を追加。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
18 科目	307 科目	37 科目	362 科目	18 科目 [0]	396 科目 [89]	20 科目 [Δ17]	434 科目 [72]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、 [] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：Δ1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	広島学(広島・ヒロシマで学ぶ、広島・ヒロシマを学ぶ)	2	2	一般	選択	担当教員退職により、次年度開講で調整中。
2	教養講義(西洋の音楽)	2	1・2	一般	選択	担当教員退職により、次年度開講で調整中。
3	教養講義(西欧近代史)	2	1・2	一般	選択	担当教員退職により、次年度開講で調整中。
4	教養講義(社会と政治)	3	1・2	一般	選択	担当者時間割調整により、次年度開講で調整中。
5	総合教養講義a(現代日本社会の諸相)	2	1・2	一般	選択	担当教員退職により、次年度開講で調整中。
6	総合教養講義a(日本の社会および経済の文化的基礎)	2	1・2	一般	選択	担当教員退職により、次年度開講で調整中。
7	総合教養講義a(江戸時代の化粧・結髪)	2	1・2	一般	選択	担当教員の時間割調整により、次年度開講で調整中。
8	総合教養講義a(神仏と芸能)	2	1・2	一般	選択	担当教員の時間割調整により、次年度開講で調整中。
9	総合教養講義a(自然環境と災害)	2	1・2	一般	選択	担当教員退職により、次年度開講で調整中。
10	総合教養講義a(情報と社会)	2	1・2	一般	選択	担当教員退職により、次年度開講で調整中。
11	総合教養講義b(和紙)	2	1・2	一般	選択	担当教員の時間割調整により、次年度開講で調整中。
12	英語ライティング研究Ⅲ	2	1・2	一般	選択	クラス数調整により、次年度開講で調整中。
13	英語ライティング研究Ⅳ	2	1・2	一般	選択	クラス数調整により、次年度開講で調整中。
14	資格英語研究Ⅴ	2	1・2①～②	一般	選択	担当教員退職により、令和元年度未開講
15	資格英語研究Ⅵ	2	1・2③～④	一般	選択	担当教員退職により、令和元年度未開講
16	健康スポーツ実習(フットサル)	1	1・2①～④	一般	選択	担当者の授業数調整により、令和元年度未開講
17	健康スポーツ実習(ボドワーク)	1	1・2	一般	選択	担当教員の時間割調整により、今年度未開講。
18	運動スポーツ実習(エアロビクス)	1	1・2	一般	選択	担当教員の時間割調整により、今年度未開講。
19	運動スポーツ実習(ダンス)	1	1・2	一般	選択	担当教員の時間割調整により、今年度未開講。

- (注) ・ 配当年次に達しているにもかかわらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	地域イノベーション論	2	1・2	一般	選択	平成29年度に開設した国際コミュニティ学部にて左記「地域イノベーションコース」科目の関連科目(一部)を置くこととしたため、廃止とし、以下の科目を他学部履修科目として履修できることとした。 地域コミュニケーション、ソーシャルイノベーション論、地域プロジェクトA(ひろしま未来協創プロジェクト、イノベーションプロジェクトI・IIの後継科目)、地域プロジェクトB(ひろしま未来協創プロジェクト、イノベーションプロジェクトI・IIの後継科目)、グローバル・プロジェクト入門(ひろしま未来協創特講の後継科目)
2	地域コミュニケーション論	2	1・2	一般	選択	
3	ひろしま未来協創プロジェクト(都心のコミュニケーション)	2	2・3	一般	選択	
4	ひろしま未来協創プロジェクト(中山間地域のコミュニケーション)	2	2・3	一般	選択	
5	ひろしま未来協創プロジェクト(都心のイノベーション)	2	2・3	一般	選択	
6	ひろしま未来協創プロジェクト(中山間地域のイノベーション)	2	2・3	一般	選択	
7	ひろしま未来協創特講(ファシリテーション入門)	1	1・2	一般	選択	
8	ひろしま未来協創特講(ワークショップ・スキル入門)	1	1・2	一般	選択	
9	ひろしま未来協創特講(発見・デザイン・中山間)	1	1・2	一般	選択	
10	ひろしま未来協創特講(発見・デザイン・都心)	1	1・2	一般	選択	
11	イノベーション・プロジェクトI(地域課題研究2019)	2	3・4	専門	選択	
12	イノベーション・プロジェクトII(地域課題研究2019)	2	3・4	専門	選択	
13	イノベーション・プロジェクトI(地域課題研究2020)	2	3・4	専門	選択	
14	イノベーション・プロジェクトII(地域課題研究2020)	2	3・4	専門	選択	

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

全学共通科目の教養科目については、詳細付の科目であり、担当者によって変遷する。
なお、地域イノベーションコースの見直しにより、関連科目の一部は国際コミュニティ学部地域行政学科の科目として開設され、他学部の履修を認めている。
 未開講科目内の専門科目は、公認心理師課程を設置するための科目であり、課程内容の詳細を確認したのちの隔年開講とする。
 学生への周知は、シラバスの配当表をホームページに掲載しているほか、ガイダンスにおいても履修に際しての注意事項として喚起している。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{33}{362} = \boxed{9.11\%}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区分		内容				備考	
(1) 校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計		
	校舎敷地	36,805㎡	0㎡	0㎡	36,805㎡		
	運動場用地	101,957㎡	0㎡	0㎡	101,957㎡		
	小計	138,762㎡	0㎡	0㎡	138,762㎡		
	その他	200,113㎡	0㎡	0㎡	200,113㎡		
	合計	338,875㎡	0㎡	0㎡	338,875㎡		
(2) 校舎	専用	70,640㎡ 70,746㎡ (70,640㎡) -(70,746㎡)	0㎡	0㎡	70,640㎡ 70,746㎡ (70,640㎡) -(70,746㎡)	建築計画と登記上の誤差による。(29)	
	共用	(0㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(0㎡)		
(3) 教室等	講義室	98室 100室	17室 20室	65室	18室 (補助職員 一人)	語学学習施設 (補助職員 一人)	
	実験実習室					7室 8室	
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室数			
	健康科学部 心理学科			13 室			
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点
	健康科学部 心理学科	891,025[236,988]	5,961[2,579]	12,656[12,597]	23,828		
		891,349[237,194]	5,876[2,554]	13,227[13,167]	23,712		
		887,652[239,007]	5,663[2,500]	12,918[12,298]	22,900		
		942,647[242,562]	5,787[2,531]	12,403[12,352]	22,606		
		(880,525[235,708])	(5,961[2,579])	(12,656[12,597])	(23,658)		
計	891,025[236,988]	5,961[2,579]	12,656[12,597]	23,828			
(6) 図書館	面積		閲覧座席数	収納可能冊数			
	11,700㎡		952 948	1,200,000		大学全体 増席(29)	
(7) 体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				
	8,871㎡		屋内プール1面	野球場1面	陸上競技場1面	アーチェリー場1面	
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	676千円	676千円	図書購入費	0千円	2,731千円 4,318千円
	共同研究費等	3,995千円 1,000千円	1,000千円	設備購入費	359千円	18,153千円 2,036千円	15,891千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		1,260千円	1,040千円	1,040千円	1,040千円	一千円	一千円
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等					

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	広島修道大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍				
商学部										
商学科	4	155	—	620	学士 (商学)	1.10		昭和35年度	広島市安佐南区 大塚東一丁目1番1号	
経営学科	4	140	—	560	学士 (経営学)	1.13		昭和38年度	同上	
経済科学部										
現代経済学科	4	115	—	460	学士 (経済科学)	1.09		平成9年度	同上	
経済情報学科	4	115	—	460	学士 (経済科学)	1.09		平成9年度	同上	
人文学部										
人間関係学科	4	60	—	240	学士 (文学)	1.15		昭和48年度	同上	
心理学専攻	4	—	—	—	学士 (文学)	—		昭和48年度	同上	平成29年より 学生募集停止
社会学専攻	4	60	—	240	学士 (文学)	1.15		昭和48年度	同上	
教育学専攻	4	—	—	—	学士 (文学)	—		昭和48年度	同上	平成28年より 学生募集停止
教育学科	4	100	—	400	学士 (教育学)	0.99	平成28年	平成28年度	同上	
英語英文学科	4	110	—	440	学士 (文学)	1.11		昭和48年度	同上	
法学部										
法律学科	4	195	—	780	学士 (法学)	1.09		昭和51年度	同上	
国際政治学科	4	—	—	—	学士 (国際政治学)	—		平成2年度	同上	平成30年より 学生募集停止
人間環境学部										
人間環境学科	4	115	—	460	学士 (人間環境学)	1.08		平成14年度	同上	
健康科学部										
心理学	4	80	—	320	学士 (心理学)	1.09	平成29年	平成29年度	同上	
健康栄養学科	4	80	—	320	学士 (栄養学)	1.00	平成29年	平成29年度	同上	
国際コミュニティ学部										
国際政治学科	4	75	—	300	学士 (国際政治学)	1.05	平成30年	平成30年度	同上	
地域行政学科	4	75	—	300	学士 (地域行政学)	1.10	平成30年	平成30年度	同上	
商学研究科										
商学専攻										
博士前期課程	2	8	—	16	修士 (商学)	0.12		昭和46年度	同上	
博士後期課程	3	2	—	6	博士 (商学)	0.16		昭和48年度	同上	
経営学専攻										
博士前期課程	2	12	—	24	修士 (経営学)	0.45		昭和52年度	同上	
博士後期課程	3	3	—	9	博士 (経営学)	0.00		昭和52年度	同上	
経済科学研究科										
現代経済システム専攻										
博士前期課程	2	8	—	16	修士 (経済学又は 経済情報)	0.18		平成13年度	同上	
博士後期課程	3	2	—	6	博士 (経済学)	0.00		平成15年度	同上	
経済情報専攻										
博士前期課程	2	8	—	16	修士 (経済学又は 経済情報)	0.18		平成13年度	同上	
博士後期課程	3	2	—	6	博士 (経済情報)	0.00		平成15年度	同上	

人文科学研究科									
心理学専攻									
博士前期課程	2	14	—	28	修士 (心理学)	0.38	昭和53年度	同上	
博士後期課程	3	2	—	6	博士 (心理学)	0.00	昭和56年度	同上	
社会学専攻 修士課程	2	5	—	10	修士 (社会学)	0.10	昭和59年度	同上	
教育学専攻 修士課程	2	5	—	10	修士 (教育学)	0.30	昭和59年度	同上	
英文学専攻									
博士前期課程	2	5	—	10	修士 (文学)	0.70	昭和53年度	同上	
博士後期課程	3	3	—	9	博士 (文学)	0.11	昭和56年度	同上	
法学研究科									
法学専攻 修士課程	2	5	—	10	修士 (法学)	1.10	昭和56年度	同上	
国際政治学専攻 修士課程	2	10	—	20	修士 (国際政治学)	0.15	平成6年度	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

「5教員組織の状況（1）担当教員表」は、個人情報を含む内容のため、掲載しておりません。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等		履 行 状 況	今後の の実施計画
<p>認可時 (平成28年10月)</p>	<p>1. 活動推進学期において「海外セミナー」、「地域援助実践体験」又は「心理学とキャリア形成」のいずれを履修する学生に対しても、活動推進学期の意図と教育課程との対応関係を十分に理解するように周知し、学生が自らのキャリアを見据えて、科目の履修や自主的な活動を行うことができるよう指導すること。併せて、「心理学とキャリア形成」を履修する場合の履修モデルを作成し、教育課程における「心理学とキャリア形成」の位置付けを分かりやすく学生に示すこと。</p>	<p>留意事項</p>	<p>「学修の手引きー健康科学部」において、活動推進学期の意図と教育課程との対応関係を記述して配布した(資料1)。</p> <p>平成31年度の新生ガイダンスでは、この「学修の手引き」を用いて、本学のディプロマ・ポリシー、活動推進学期の意義と活動内容、及び活動推進学期に向けて今後必要となる準備について説明した。また1年次第1学期開講の「修大基礎講座」「初年次セミナー」において、引き続き活動推進学期の意義と内容について説明している。</p>	<p>履行済</p>
	<p>2. 海外セミナーの単位認定については、本学における対応する各科目をあらかじめ学生に明示するなど、学生に対して分かりやすい情報を提供すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>各海外セミナーにおける学習内容・学習時間に対応する科目(海外研修A、B、C、D、E)を全学共通のグローバル科目区分(留学支援教育)に追加し、これにより単位認定することとした。活動推進学期中の海外セミナーに対応する科目・単位認定について、新入生に対するガイダンスにおいて周知した(2019年1月に実施した「地域援助実践体験」の説明会においても学生に対して解説した)(資料2・資料3)。</p>	<p>履行済</p>
	<p>3. 海外セミナーと「地域援助実践体験」については、受入可能人数に限られており、希望者が全員受講できる体制とは言いえないことから、あらかじめ対象人数や選定の基準を学生に周知するとともに、希望者が受講できるように受入先の拡充や受講期間の柔軟化に努めること。</p>		<p>平成30年度生に対する活動推進学期ガイダンス(履修指導)を2期に分けて実施し(平成30年11月26日～28日のクラス別ガイダンス及び平成31年1月29日の全体ガイダンス)、活動推進学期の理念、海外セミナー渡航先と概算費用、「地域援助実践体験」の派遣施設の特徴と選定基準、「心理学とキャリア形成」の理念と活動事例について改めて説明した(資料4・資料5・資料6・資料7)。</p> <p>また平成31年2月18日を締切とし、次年度活動推進学期における希望活動(海外セミナー、「地域援助実践体験」もしくは「心理学とキャリア形成」)を学生に提出させた。その後3月中旬にかけて、海外セミナー及び「地域援助実践体験」に登録した学生と海外セミナー担当教員あるいは派遣施設担当教員が面談を行い、これら両活動に対する学生の志望理由と実践体験</p>	

		<p>留意事項</p>	<p>への参加の意志を確認した。志望理由・参加意志が明確でない学生については、本人の同意の上で「心理学とキャリア形成」の履修を指導した。</p> <p>その結果、令和元年度は、海外セミナー8名、「地域援助実践体験」44名、「心理学とキャリア形成」31名が内定し、平成30年度生全員が活動推進学期のいずれかの活動に参加することとなった。3月27日には平成30年度生全員を集めて活動推進学期履修登録ガイダンスを実施して各活動の履修登録方法を周知した。なお一部の実践体験施設では受講期間を2年次第3学期に限定せず、各学生のスケジュールに合わせて順次5月から実践体験を開始する。なお海外セミナーに関しては1大学（台湾国立屏東大学）、「地域援助実践体験」の派遣施設としては5施設を追加するとともに、旧来の施設の定員調整を行った（資料8）。</p>	<p>履行済</p>
	<p>4. 「心理学とキャリア形成」は、学生が自らテーマを設定して活動を行う科目であることから、「学外で1か月以上の体験学習に従事する教育プログラム」としての考え方が各テーマに反映されるよう十分に指導し、適切な活動把握と成績評価を行うよう努めること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>「心理学とキャリア形成」を含む活動推進学期の理念については、新入生ガイダンス、初年次セミナー、修大基礎講座、活動推進学期ガイダンス（11月及び1月）において説明してきた（資料1・資料7）。</p> <p>平成30年度の「心理学とキャリア形成」履修登録者は8名、単位取得者は5名であった。担当教員3名の指導によって、80時間相当の自主活動が可能な課題設定を各履修者と話し合いながら決定し、活動開始後は電子メールあるいは面談によって課題の進行状況を確認して行った。さらに1・2年次生を対象とした平成31年1月29日の活動推進学期全体報告会・ガイダンスにおいて、先の5名の「心理学とキャリア形成」での体験発表をさせる等、適切な指導・学習成果の把握に努めた。また次年度履修対象者についても、「心理学とキャリア形成」における活動事例を学修の手引きへ追加掲載することによって、履修生が自主活動プログラムをイメージしやすいように配慮した（資料1）。</p>	<p>履行済</p>

設置計画履行状況 調査時 (平成30年2月)	該当なし		該当なし		
設置計画履行状況 調査時 (平成31年3月)	<p>本学科の特色となる「活動推進学期」(2年次3学期)に関する学生への履修指導が十分に実施されておらず、設定された「海外セミナー」、「地域援助実践体験」及び「心理学とキャリア形成」のいずれも履修しない学生が多数生じているほか、受入先の充実等に向けた取り組みも不十分である。これらの状況は、設置計画及び認可時の留意事項の不履行であるため、提示された改善方針を確実に履行し、教育の質の向上に努めること。</p>	指摘事項 (是正)	<p>平成30年10月26日に実施された本学健康科学部設置計画履行状況等調査(面接調査)における指摘事項をもとに、その直後より以下の改善策を実施した。その結果、今年度の活動推進学期(第3学期)では、海外セミナー8名(イギリス・カンタベリーセミナー5名、台湾国立屏東大学海外文化体験セミナー3名)、地域援助実践体験44名、心理学とキャリア形成31名が登録することになった。なお実施した改善項目は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 平成30年度生(今年度2年生)より、活動推進学期の3プログラム(海外セミナー、「地域援助実践体験」、「心理学とキャリア形成」)のうちの一つを必ず履修すること(履修必修)とした(資料9)。 海外セミナーの受け入れ校として「台湾国立屏東大学」を追加し、派遣先を3校とした(資料6)。 海外セミナーの参加者に対し、奨学金(参加費用の2割程度)を支給することとし、ガイダンスにおいて告知した(資料7・資料10)。 「地域援助実践体験」の派遣施設を14施設に拡充し、そのうち学生から希望のあった8施設のそれぞれに学科担当教員を配置して、より緊密な指導が行えるようにした(資料8・資料11)。 学修の手引きにおける「心理学とキャリア形成」に自主活動の具体例を追加した(資料1)。 	履行済	
	「海外セミナー」によって海外大学で取得した単位の認定方法が適切でないため、是正すること。	指摘事項 (是正)	海外セミナーについて、それぞれに担当教員(本学国際センター教員等)を配置し、シラバス等を整備した(資料2・資料3)。	履行済	

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<健康科学部 心理学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

広島修道大学FD・SD規定に基づき、全学にわたるFDに関する事項は、広島修道大学大学運営会議で審議する。各学部、研究科については、それぞれFD推進委員会を組織している。健康科学部にも健康科学部FD作業委員会が設置されている。また、健康科学部心理学科及び健康栄養学科は、教育内容、教育方法等の改善を図るために、それぞれに学科会議を開催してFD活動を行っている。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

<大学運営会議>
学長、副学長、学部長、学長室長、学生センター長、教学センター長、事務局長、総務部長、財務部長、総合企画課長、その他学長が必要と認めたものによって構成され、毎週開催される。令和元年度も4月15日の大学運営会議の議題「令和元年度研修計画について」で平成30年度の研修実施実績報告と令和元年度の研修計画が承認された。

<健康科学部FD推進(作業)委員会>
年に2回以上開催しており、健康科学部専任教員及び学部担当教務職員が参加する。

<学科会議>
心理学科、健康栄養学科のそれぞれが毎月定例で開催しており、各学科の専任教員がすべて参加する。

c 委員会の審議事項等

<大学運営会議>

1. FD及びSDを推進するための企画及び調整に関すること
2. FD及びSDに関する報告書等の作成に関すること
3. その他FD及びSDの推進に関すること

<健康科学部FD推進委員会>

1. カリキュラム・授業科目の構成について
2. 授業科目のシラバス・授業計画の内容について
3. 授業の方法について
4. 履修指導について
5. 厳正で客観的な成績評価方法について
6. 成績評価結果の告知方法について
7. 進級制度及び進級認定について
8. 最終試験及び卒業認定について
9. 資格取得について
10. 授業アンケートについて
11. その他必要な事項について

<学科会議>

1. 各学科におけるカリキュラム・授業科目の構成について
2. 各学科における授業科目のシラバス・授業計画の内容について
3. 各学科における授業の方法について
4. 各学科における履修指導について
5. 各学科に関連する校務分掌について
6. 一般入試における指定科目の検討並びに推薦入試の出題内容について
7. オープンキャンパスの内容並びに担当者について
8. 学科予算について
9. 学科事業計画について
10. その他必要な事項について

② 実施状況

a 実施内容

全学では、教員の資質向上のために、大学改善のための諸方策について大学教職員の共通認識を醸成することを目指したFD・SD研修会、新任教員のための研修会である教育力アップセミナー、教授方法の改善を目指した組織的な公開授業等を行っている。健康科学部では、カリキュラム、成績評価、授業の方法等について、心理学科、健康栄養学科に共通する課題を予めFD推進(作業)委員会委員が整理し、学部教授会に提出して審議している。また心理学科、健康栄養学科の定例の学科会議においては、その折々の学科の抱える課題を解決してきた。

b 実施方法

全学的なFD・SD研修会はすべての教員が参加しやすいように定例教授会の開始時間を1時間繰り下げて教授会前に行う。またFD・SD研修会では、報告者を工夫することで大学を構成する各部署がその取り組みを共有できるようにしている。健康科学部FD推進(作業)委員会によって整理された検討事項は教授会において審議している。また心理学科、健康栄養学科の各会議も定例教授会の終了後に連続して開催し、さらに参加者全員が議事録を共有することで教育・研究に関わる学科での取り組みを常に確認できるようにしている。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

〈全学〉

・FD・SD研修会

年2~3回開催。令和元年度は、現時点で、第1回「修道力フォーラム(予定)」(8月5日)、第2回「テーマは調整中」(10月9日)の開催が決定している。平成30年度は以下の通りであった。

第1回「経常費補助金とは？」

(6月13日開催 参加者数: 教員157名、職員75名)

第2回「修道力フォーラム—配慮を要する学生への対応について—」

〈第1部〉 発達障がいのある学生への対応

「発達障がいのある学生をどう教育し、どう評価するか？」

「障害者差別解消法施行後の本学の体制と事例報告」

〈第2部〉 広島修道大学の学生対応のいまを語る

〈パネルディスカッション〉

「教育現場での課題と対応を探る」

(8月3日開催 参加者数: 教員169名、職員114名)

第3回「「修道力フォーラム」フィードバックと展望」

(10月10日開催 参加者数: 教員156名、職員95名)

・教育力アップセミナー(新任教員対象)

平成30年度

「修大を知ろう より効果的な授業のために」

①「学び方の個性を知—違いから学ぶ、違いを受け入れる姿勢—」

②「違いから学ぼう—各自が抱える教育課題の解決に向けて—」

(8月31日開催 参加者数: 教員11名、職員2名)

・教員相互の授業参観

教員個々の授業方法改善のため平成10年以来、公開授業を行っている。令和元年度は5月24日から6月21日までを前期公開授業実施期間として、現在、希望者を募っている。平成30年度は、111名の教員が189クラスで公開授業を実施し、延べ85名の教員が参加をして授業研究を行った。

〈健康科学部〉

平成30年度のFD推進委員会のテーマは以下の通りであった。

第1回「配慮学生への対応について」(7月11日開催 参加者数: 24名): 本学では、平成28年の「障害者差別解消法」の施行に伴い、当該学生本人あるいはその保護者から要請があった場合には、いかなる配慮をその学生が必要としているかを明記した配慮要請文を当該学生の授業担当者に配布している。このFDでは、そのような配慮要請に対する各教員の具体的な取り組みを紹介し、またそこで生じる問題点等について情報を交換した。さらに近年増加の傾向がうかがえる発達障害を有する学生、特にアスペルガー症候群の学生に対するレポート指導の在り方について情報を共有した。

第2回「入試形態によるその後の成績推移について」(12月12日開催 参加者数: 23名): 完成年度以降の学部入試のあり方及びそれぞれの定員を検討するための最初の資料として、AO入試をはじめとする種々の入試形態で入学してきた学生たちの入学後の成績変化について、心理学科・健康栄養学科の別にそのGPAを算出し、半期ごとの成績の推移について検討した。その結果、入試形態による入学後成績には大きな差は認められなかったものの、学年・学期進行に伴いGPAが低下する傾向にあることが判明した。今後もこの種のデータを蓄積しつつ、学生指導の在り方を引き続き検討して行くことを確認した。

なお健康科学部は平成30年度が開設2年目であったが、教授会における審議のほとんどをカリキュラムの忠実な履行とその改善策の構築に費やし、講師招聘等による特別な研修会は開催しなかった。令和元年度も引き続きカリキュラムの忠実な履行に努め、その中で発生する諸問題について教員相互で検証・議論しながらFD研修の一環として問題解決に当たりたい。

〈心理学科〉

各学科会議において教学や学生指導上の問題点を整理・検討してきたが、今年度も同様に各学科会議がその種の重要な役割を担う。

なお心理学科では、平成23年度から28年度のカリキュラムをもとに作成したCan-doリスト、すなわち学習者が身につけるべき能力リストを調査項目として、本学心理学科の学生が4年間でどの程度向上したかの調査を実施し(調査時期は平成27年1月~2月)、平成29年末にその調査結果を取りまとめることにより、多くの項目で学年進行に伴いその得点が上昇することを確認した(中西大輔「心理学専攻(2001カリキュラム)における教育成果指標としての can-do リストの開発」、広島修道大学健康科学研究第1巻(平成30年2月、51-63)。平成30年度は、平成29年度からの新カリキュラムに沿った新たなcan-doリストを作成し、心理学科に在籍する全学生を対象とした調査を実施して現在その分析を行っている。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

全学のFDでは、参加後のアンケートを通して、次回のFDテーマ設定等の参考としている。また、公開授業では、参観者のアドバイスシートを通じて、実施教員の授業改善に活かしている。健康科学部教授会及び各学科における学科会議は、まさに日々の教育に直結する内容ばかりであり、各教員が自らの教育指導に反映させている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

授業改善のために、年2回(前期・後期)定期的に非常勤講師も含めて全教員が実施している。平成30年度は通年で366名の教員が実施し(専任教員の実施率は99.0%)、一人あたりの平均実施科目数は3.34科目であった。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業アンケートの結果は、本人のみならず学科・専攻・グループの単位でもフィードバックし、組織的な点検・評価に活用している。学生等に対しては、本学Webサイトにて以下の項目を公開している。

・科目分類別の授業アンケート集計表

・実施集計表(学部単位の実施者数および率)

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

健康科学部は、中央教育審議会答申が「我が国の高等教育の将来像」（平成17年1月28日）で掲げた機能のうち、第一に「高度専門職業人養成」の機能を担い、心理学科では臨床心理士・公認心理師等の心理カウンセラー、健康栄養学科では管理栄養士及び栄養士を養成し、併せて「幅広い職業人養成」の機能を担うことにより、児童心理司、心理判定員、社会福祉主事、食品衛生管理者、食品衛生監視員、高等学校（公民）教諭、栄養教諭等を養成することを目的として設置された。また、以上のような人材を社会に送り出すことによって「社会貢献（地域貢献）機能」をも担う。

設置1年目の平成29年度は、健康科学部並びに心理学科、健康栄養学科のそれぞれの設置趣旨・目的について、入学時の教学センターガイダンス、学科教員ガイダンス、チューターガイダンス、更には学科基礎科目等で折に触れてしっかりと学生に認識させながら履修指導を行うとともに、健康科学部設置趣意書に記載した両学科のカリキュラムを履行した。

しかしながら心理学科の場合、平成31年3月の設置計画履行状況調査によって、『本学科の特色である「活動推進学期」（2年次3学期）に関する学生への履修指導が十分に実施されておらず、設定された「海外セミナー」、「地域援助実践体験」及び「心理学とキャリア形成」のいずれも履修しない学生が多数生じているほか、受入先の充実等に向けた取り組みも不十分である。これらの状況は、設置計画及び認可時の留意事項の不履行であるため、提示された改善方針を確実に履行し、教育の質の向上に努めること。』という指摘を受けた。これと同様の指摘は平成30年10月26日に実施された面接調査において既になされたものであり、その直後よりこれらの指摘を重く受け止め数々の改善策を実施してきたところである。その結果、令和元年度の「活動推進学期」では、海外セミナー8名、地域援助実践体験44名、心理学とキャリア形成31名の登録が本年4月の時点で確認されている。今年度の活動推進学期を着実に履行するために、また次年度以降の活動推進学期をさらに実りあるものとするために、学部・学科をあげてその改善に取り組んでいく。

なお、心理学科のひとつの目的である臨床心理士・公認心理師等の心理カウンセラー育成という点に関しては、前者の場合、本学大学院人文科学研究科心理学専攻臨床心理学領域の課程が、臨床心理士養成大学院として平成31年3月に臨床心理士認定協会によって認可された。公認心理師養成については、既に学部・大学院ともに平成30年度から課程を開設している。

また心理学科の令和元年度入試では、入学定員80名に対して全ての入試制度における志願者数が725名（平成30年度入試651名）と増加し、95名が入学した。入学定員の厳格化という観点からは及第点に達していない。今後はその原因を多方面から検討し、次年度以降はその入学定員を厳格に守って行きたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和元年8月1日 公表

b 公表方法

本学は、学則及び大学院学則において、「その教育研究水準の向上を図り、大学の目的及び社会的使命を達成するため、大学における教育研究活動等の状況について自己点検・評価を行い、その結果を公表するものとする」と定めている。また、その教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとし、社会に対する説明責任を課している。具体的には、本学の取り組みを、『広島修道大学の現状と課題』（1993年～）、『広島修道大学白書』（1999年度～）、『広島修道大学の現況』（2009年度～）として刊行し、社会に公開している。また、Webサイトでも同様の情報公表を行っている。

③ 認証評価を受ける計画

これまで、平成16年度、平成23年度、及び平成30年度に大学基準協会の第三者評価を受け、適合と判定されている。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 (有 ・ 無)

b 公表有の場合の公表（予定）時期 (2019年 7月 1日)

b 公表無の場合の特段の理由 ()

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人修道学園

(2) 大学名

広島修道大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒731-3195

広島県広島市安佐南区大塚東一丁目1番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ハヤシ マサオ) 林 正夫 (平成12年7月1日)		
学長	(イチカワ タイチ) 市川 太一 (平成22年4月1日)	(ミカミ タカノリ) 三上 貴教 (平成30年4月1日)	任期満了による交代 (平成30年4月1日) (30)
学部長	(マスダ ヒサシ) 増田 尚史 (平成29年4月1日)	(フルミツ イサト) 古満 伊里 (平成30年4月1日)	任期満了による交代 (平成30年4月1日) (30)
学科長等	(ヤマウチ アリノブ) 山内 有信 (平成29年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
健康科学部 健康栄養学科 学士(栄養学)	家政関係	4年	80人	-	320人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 (-) [-]	人 (-) [-]	80人 (-) [-]	人 (-) [-]	80人 (-) [-]	人 (-) [-]	80人 (-) [-]	人 (-) [-]	1.00倍	- 倍	
志願者数	(-) [-]	(-) [-]	279 (-) [2]	(-) [-]	402 (-) [1]	(-) [-]	331 (-) [2]	(-) [-]			
受験者数	(-) [-]	(-) [-]	278 (-) [2]	(-) [-]	398 (-) [1]	(-) [-]	330 (-) [2]	(-) [-]			
合格者数	(-) [-]	(-) [-]	198 (-) [2]	(-) [-]	219 (-) [0]	(-) [-]	220 (-) [1]	(-) [-]			
B 入学者数	(-) [-]	(-) [-]	79 (-) [2]	(-) [-]	87 (-) [0]	(-) [-]	77 (-) [1]	(-) [-]			
入学定員超過率 B/A			0.98		1.08		0.96				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	— [—] (—)	— [—] (—)	79 [2] (—)	— [—] (—)	87 [—] (—)	— [—] (—)	77 [1] (—)	— [—] (—)	
2年次	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	79 [2] (—)	— [—] (—)	87 [—] (—)	— [—] (—)	
3年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	79 [2] (—)	— [—] (—)	
4年次			/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
計	— [—] (—)	79 [2] (—)			166 [2] (—)	243 [3] (—)			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成27年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
平成28年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
平成29年度	79 人	0 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
平成30年度	166 人	0 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
令和元年度	243 人	0 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		人	人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{\quad}{\quad} = \boxed{\quad} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{\quad}{\quad} = \boxed{\quad} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{79} = \boxed{0} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{166} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{243} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<健康科学部 健康栄養学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通科目	修大基礎講座	1①		2		3						
	初年次セミナー	1②		2		2						
	情報処理入門 I	1前	2								2	
	情報処理入門 II (情報と表現)	1・2通		2							6	
	情報処理入門 II (情報と分析)	1・2通		2							6	
	大学生活とキャリア形成	2前		2							3	
	地域イノベーション論	1・2通		2							1	
	地域コミュニケーション論	1・2通		2							1	
	ひろしま未来協創プロジェクト (都心のコミュニケーション)	2・3前		2							1	
	ひろしま未来協創プロジェクト (中山間地域のコミュニケーション)	2・3前		2							1	
	ひろしま未来協創プロジェクト (都心のイノベーション)	2・3後		2							1	
	ひろしま未来協創プロジェクト (中山間地域のイノベーション)	2・3後		2							1	
	ひろしま未来協創特講 (フアンリデザイン入門)	1・2①		1							1	
	ひろしま未来協創特講 (ワークショップ・スキル入門)	1・2②		1							1	
	ひろしま未来協創特講 (発見・デザイン・中山間)	1・2④		1							1	
	ひろしま未来協創特講 (発見・デザイン・都心)	1・2③		1							1	
	広島学(広島・ヒロシマで学ぶ、広島・ヒロシマを学ぶ)	2前		2							4	
小計(17科目)	—											
留学生教育科目	日本語 I	1・2前		1							1	
	日本語 II	1・2後		1							1	
	日本語 III	1・2前		1							1	
	日本語 IV	1・2後		1							1	
	日本語 V	1・2前		1							1	
	日本語 VI	1・2後		1							1	
	日本語 VII	1・2前		1							1	
	日本語 VIII	1・2後		1							1	
	アカデミック日本語	1・2通		2							1	
	ビジネス日本語	1・2通		2							1	
	日本研究	1・2通		2							1	
小計(11科目)	—											
留学支援教育科目	留学スタートアップ	1・2通		1							1	
	留学英語入門	1・2通		2							1	
	英語圏留学入門	1・2通		1							1	
	アジア圏留学入門	1・2通		1							1	
	外国語としての日本語	1・2通		2							1	
	留学フォローアップ	1・2通		1							1	
	グローバル特講 I	1通		2							1	
	グローバル特講 II	1通		1							1	
	グローバル特講 III	2通		2							1	
	グローバル特講 IV	2通		2							1	
	海外研修A (海外文化体験/食育・観光研修)	1~4		1							1	
	海外研修B (AIO/Conversational English I)	1~4		2							1	
	海外研修B (AIO/Conversational English II)	1~4		2							1	
	海外研修B (AIO/New Zealand Studies)	1~4		2							1	
	海外研修B (AIO/Writing English I)	1~4		2							1	
	海外研修B (AIO/Writing English II)	1~4		2							1	
海外研修B (OOSU/General English Topic 1)	1~4		2							1		
海外研修B (OOSU/General English Topic 2)	1~4		2							1		
海外研修B (Falloian/American Culture)	1~4		2							1		
海外研修B (Falloian/United Nations)	1~4		2							1		
海外研修B (OPBU/Responsibility and Service Learning)	1~4		2							1		
海外研修B (RMIT/Listening 1)	1~4		2							1		
海外研修B (RMIT/Reading 1)	1~4		2							1		
海外研修B (RMIT/Speaking 1)	1~4		2							1		
海外研修B (RMIT/Writing 1)	1~4		2							1		
海外研修B (海外文化体験/中核・国際実践)	1~4		2							1		
海外研修B (現代ベトナム事情)	1~4		2							1		

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
全学共通科目	修大基礎講座	1①		2		3					
	初年次セミナー	1②		2		2					
	情報処理入門 I	1前	2								2
	情報処理入門 II (情報と表現)	1・2通		2							5
	情報処理入門 II (情報と分析)	1・2通		2							5
	情報応用(情報セキュリティ)	2・3		2							1
	大学生活とキャリア形成	2前		2							3
	広島学(広島・ヒロシマで学ぶ、広島・ヒロシマを学ぶ)(未開講)	2前		2							4
	小計(8科目)	—									
	留学生教育科目	日本語 I	1・2前		1						
日本語 II		1・2後		1							3
日本語 III		1・2前		1							3
日本語 IV		1・2後		1							3
日本語 V		1・2前		1							3
日本語 VI		1・2後		1							3
日本語 VII		1・2前		1							3
日本語 VIII		1・2後		1							3
アカデミック日本語		1・2前		2							1
ビジネス日本語		1・2後		2							1
日本研究(日本の政治)		1・2前		2							1
日本研究(日本の民俗)		1・2後		2							1
日本研究(日本の経済)		1・2後		2							1
小計(13科目)	—										
留学支援教育科目	留学スタートアップ	1・2通		1							1
	留学英語入門	1・2通		2							1
	英語圏留学入門	1・2通		1							1
	アジア圏留学入門	1・2通		1							1
	外国語としての日本語	1・2通		2							1
	留学フォローアップ	1・2通		1							1
	グローバル特講 I	1前		2							3
	グローバル特講 II	1④		1							1
	グローバル特講 III	2前		1							1
	グローバル特講 IV	3・4①		2							1
	海外研修A (海外文化体験/食育・観光研修)	1~4		1							1
	海外研修B (AIO/Conversational English I)	1~4		2							1
	海外研修B (AIO/Conversational English II)	1~4		2							1
	海外研修B (AIO/New Zealand Studies)	1~4		2							1
	海外研修B (AIO/Writing English I)	1~4		2							1
	海外研修B (AIO/Writing English II)	1~4		2							1
	海外研修B (OOSU/General English Topic 1)	1~4		2							1
	海外研修B (OOSU/General English Topic 2)	1~4		2							1
	海外研修B (Falloian/American Culture)	1~4		2							1
	海外研修B (Falloian/United Nations)	1~4		2							1
	海外研修B (OPBU/Responsibility and Service Learning)	1~4		2							1
	海外研修B (RMIT/Listening 1)	1~4		2							1
	海外研修B (RMIT/Reading 1)	1~4		2							1
海外研修B (RMIT/Speaking 1)	1~4		2							1	
海外研修B (RMIT/Writing 1)	1~4		2							1	
海外研修B (海外文化体験/中核・国際実践)	1~4		2							1	
海外研修B (現代ベトナム事情)	1~4		2							1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格課程 関連授業科目	学校栄養教育論Ⅰ	3前			2	1	1					
	学校栄養教育論Ⅱ	3後			2	1	1				1	
	憲法Ⅰ	1・2前			2						2	
	憲法Ⅱ	1・2後			2						2	
	小計(4科目)	—										
合計(346科目)			—									
卒業要件及び履修方法												
必修科目85単位、専門科目の選択科目から93単位、修道スタンダード科目から6単位以上、共通教育科目から22単位以上を修得し、124単位以上修得すること。(履修科目の登録上限46単位(年間))												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格課程 関連授業科目	学校栄養教育論Ⅰ	3前			2	1	1					
	学校栄養教育論Ⅱ	3後			2	1	1				1	
	憲法Ⅰ	1・2前			2						2	
	憲法Ⅱ	1・2後			2						2	
	小計(4科目)	—										
合計(390科目)			—									
卒業要件及び履修方法												
必修科目85単位、専門科目の選択科目から93単位、修道スタンダード科目から6単位以上、共通教育科目から22単位以上を修得し、124単位以上修得すること。(履修科目の登録上限46単位(年間))												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手	
	総合教養講義a(宇宙と環境科学)	1・2通		2							1	
	総合教養講義a(自然環境と災害)(未開講)	1・2前		2							1	
	総合教養講義a(市民と行政)	1・2後		2							1	
	総合教養講義b(芸術文化)	2通		2							1	
	総合教養講義b(江戸時代の服飾)	2後		2							1	
	総合教養講義b(和紙)	2後		2							1	
	総合教養講義b(メディア論)	2後		2							1	
	総合教養講義b(社会保障論)	2後		2							1	
	総合教養講義b(労働問題と法)	2後		2							1	
	総合教養講義b(国際理解)	2前		2							1	
	総合教養講義b(生命情報論)	2前		2							1	
	総合教養コース(世界の言語と文化)	1・2前		2							12	
	総合教養コース(情報化社会と人間)	1・2通		2							4	
	小計(88科目)	—										
	外国語科目 英語科目	英語リスニング I	1前		1							4
		英語リスニング III	1前		1							1
		英語リスニング V	1前		1							1
		英語リスニング II	1後		1							4
		英語リスニング IV	1後		1							1
		英語リスニング VI	1後		1							1
英語リーディング I		1前		1							1	
英語リーディング III		1前		1							1	
英語リーディング V		1前		1							1	
英語リーディング II		1後		1							4	
英語リーディング IV		1後		1							1	
英語リーディング VI		1後		1							1	
実用英語実習 I		1・2前		1							1	
実用英語実習 II		1・2後		1							1	
英語ライティング研究 I		1・2前		2							1	
英語ライティング研究 II		1・2後		2							1	
英語ライティング研究 III(未開講)		1・2前		2							1	
英語ライティング研究 IV(未開講)		1・2後		2							1	
英語読解研究 I		1・2前		2							3	
英語読解研究 II		1・2後		2							3	
英語読解研究 III		1・2前		2							1	
英語読解研究 IV		1・2後		2							1	
英語聴解研究 I		1・2前		2							2	
英語聴解研究 II		1・2後		2							2	
英語聴解研究 III		1・2前		2							1	
英語聴解研究 IV		1・2後		2							1	
英語コミュニケーション研究 I		1・2前		2							2	
英語コミュニケーション研究 II		1・2後		2							2	
英語コミュニケーション研究 III		1・2前		2							1	
英語コミュニケーション研究 IV		1・2後		2							1	
英語コミュニケーション研究 V		1・2前		2							1	
英語コミュニケーション研究 VI		1・2後		2							1	
英語語法研究 I		1・2前		2							2	
英語語法研究 II		1・2後		2							2	
英語語法研究 III		1・2前		2							1	
英語語法研究 IV		1・2後		2							1	
資格英語研究 I		1・2前		2							5	
資格英語研究 II		1・2後		2							5	
資格英語研究 III		1・2前		2							2	
資格英語研究 IV		1・2後		2							2	
資格英語研究 V(未開講)		1・2前		2							1	
資格英語研究 VI		1・2後		2							1	
英語プレゼンテーション研究 I		1・2前		2							1	
英語プレゼンテーション研究 II		1・2後		2							1	
小計(44科目)	—											
外国語科目 初修外国語科目	ドイツ語 I	1前		1							2	
	ドイツ語 II	1後		1							2	
	ドイツ語 III	1前		1							2	
	ドイツ語 IV	1後		1							2	
	フランス語 I	1前		1							1	
	フランス語 II	1後		1							1	
	フランス語 III	1前		1							1	
	フランス語 IV	1後		1							1	
	スペイン語 I	1前		1							1	
	スペイン語 II	1後		1							1	
	スペイン語 III	1前		1							1	
	スペイン語 IV	1後		1							1	
	中国語 I	1前		1							2	
	中国語 II	1後		1							2	
	中国語 III	1前		1							2	
	中国語 IV	1後		1							2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手	
	総合教養講義a(宇宙と環境科学)	1・2通		2							1	
	総合教養講義a(自然環境と災害)(未開講)	1・2前		2							1	
	総合教養講義a(市民と行政)	1・2後		2							1	
	総合教養講義b(芸術文化)	2通		2							1	
	総合教養講義b(江戸時代の服飾)	2後		2							1	
	総合教養講義b(和紙)	2後		2							1	
	総合教養講義b(メディア論)	2前		2							1	
	総合教養講義b(社会保障論)	2後		2							1	
	総合教養講義b(労働問題と法)	2後		2							1	
	総合教養講義b(国際理解)	2前		2							1	
	総合教養講義b(生命情報論)	2前		2							1	
	総合教養コース(世界の言語と文化)	1・2前		2							12	
	総合教養コース(情報化社会と人間)	1・2通		2							2	
	小計(88科目)	—										
	外国語科目 英語科目	英語リスニング I	1前		1							3
		英語リスニング III	1前		1							1
		英語リスニング V	1前		1							1
		英語リスニング II	1後		1							3
		英語リスニング IV	1後		1							1
		英語リスニング VI	1後		1							1
英語リーディング I		1前		1							1	
英語リーディング III		1前		1							1	
英語リーディング V		1前		1							1	
英語リーディング II		1後		1							3	
英語リーディング IV		1後		1							1	
英語リーディング VI		1後		1							1	
実用英語実習 I		1・2前		1							1	
実用英語実習 II		1・2後		1							1	
英語ライティング研究 I		1・2前		2							2	
英語ライティング研究 II		1・2後		2							2	
英語ライティング研究 III		1・2前		2							2	
英語ライティング研究 IV		1・2後		2							2	
英語読解研究 I		1・2前		2							3	
英語読解研究 II		1・2後		2							3	
英語読解研究 III		1・2前		2							1	
英語読解研究 IV		1・2後		2							1	
英語聴解研究 I		1・2前		2							2	
英語聴解研究 II		1・2後		2							2	
英語聴解研究 III		1・2前		2							1	
英語聴解研究 IV		1・2後		2							1	
英語コミュニケーション研究 I		1・2前		2							2	
英語コミュニケーション研究 II		1・2後		2							2	
英語コミュニケーション研究 III		1・2前		2							1	
英語コミュニケーション研究 IV		1・2後		2							1	
英語コミュニケーション研究 V		1・2前		2							1	
英語コミュニケーション研究 VI		1・2後		2							1	
英語語法研究 I		1・2前		2							2	
英語語法研究 II		1・2後		2							2	
英語語法研究 III		1・2前		2							1	
英語語法研究 IV		1・2後		2							1	
資格英語研究 I		1・2前		2							6	
資格英語研究 II		1・2後		2							6	
資格英語研究 III		1・2前		2							2	
資格英語研究 IV		1・2後		2							2	
資格英語研究 V		1・2前		2							1	
資格英語研究 VI		1・2後		2							1	
英語プレゼンテーション研究 I		1・2前		2							1	
英語プレゼンテーション研究 II		1・2後		2							1	
小計(44科目)	—											
外国語科目 初修外国語科目	ドイツ語 I	1前		1							2	
	ドイツ語 II	1後		1							2	
	ドイツ語 III	1前		1							2	
	ドイツ語 IV	1後		1							2	
	フランス語 I	1前		1							1	
	フランス語 II	1後		1							1	
	フランス語 III	1前		1							1	
	フランス語 IV	1後		1							1	
	スペイン語 I	1前		1							1	
	スペイン語 II	1後		1							1	
	スペイン語 III	1前		1							1	
	スペイン語 IV	1後		1							1	
	中国語 I	1前		1							2	
	中国語 II	1後		1							2	
	中国語 III	1前		1							2	
	中国語 IV	1後		1							2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
管理論	給食経営管理論Ⅰ	1後	2			1						
	給食経営管理論Ⅱ	2前	2			1						
	給食経営管理実習Ⅰ(学内)	2後	1			1				2		
	給食経営管理実習Ⅱ(地域配食)	2後	1			1				2		
	小計(4科目)	—										
演習合	総合栄養演習Ⅰ	3通	2			4						
	総合栄養演習Ⅱ	4通		2		4						
	小計(2科目)	—										
臨地実習	臨地実習Ⅰ(給食の運営)	3通	1			1					1	
	臨地実習Ⅱ(給食経営管理論)	4通		1		1					1	
	臨地実習Ⅲ(臨床栄養学)	4通		1		2					1	
	臨地実習Ⅳ(臨床栄養学)	4通		1		2					1	
	臨地実習Ⅴ(公衆栄養学)	4通		1		2					1	
	小計(5科目)	—										
専門発展分野	食品機能性成分の理解	3前		2		1						
	食品微生物学	3後		2		1						
	食産業の理解	3後		2		1						
	地域食産業演習	4通		2		1						
	小計(4科目)	—										
ゼミナール	卒業基礎ゼミ	3後	2			10	1					
	卒業ゼミ	4通	2			10	1					
	卒業年次セミナー	4通		2		10	1					
	小計(3科目)	—										
教職に関する科目	教職入門(中等)	1前			2							1
	教育心理学(中等)	2・3後			2							1
	教育原理(中等)	1前			2							1
	教育制度論(中等)	1後			2							1
	中等道徳教育論	2後			2							1
	中等特別活動論	2後			2							1
	中等教育方法論	2前			2							1
	中等生徒指導論(栄養)	2前			2							1
	中等教育相談	2後			2							1
	学校栄養教育実習事前事後指導	3・4通			1	2	1					1
	学校栄養教育実習	4通			1	1	1					1
	教職実践演習(栄養)	4後			2	2	1					1
	小計(12科目)	—										
資格課程関連授業科目	学校栄養教育論Ⅰ	3前			2	1	1					
	学校栄養教育論Ⅱ	3後			2	1	1					1
	憲法Ⅰ	1・2前			2							2
	憲法Ⅱ	1・2後			2							2
小計(4科目)	—											
合計(366科目)	—											
卒業要件及び履修方法												
必修科目85単位、専門科目の選択科目から93単位、修道スタンダード科目から6単位以上、共通教育科目から22単位以上を修得し、124単位以上修得すること。(履修科目の登録上限46単位(年間))												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
管理論	給食経営管理論Ⅰ	1後	2			1						
	給食経営管理論Ⅱ	2前	2			1						
	給食経営管理実習Ⅰ(学内)	2後	1			1					2	
	給食経営管理実習Ⅱ(地域配食)	2後	1			1					2	
	小計(4科目)	—										
演習合	総合栄養演習Ⅰ	3通	2			4						
	総合栄養演習Ⅱ	4通		2		4						
	小計(2科目)	—										
臨地実習	臨地実習Ⅰ(給食の運営)	3通	1			1						1
	臨地実習Ⅱ(給食経営管理論)	4通		1		1						1
	臨地実習Ⅲ(臨床栄養学)	4通		1		2						1
	臨地実習Ⅳ(臨床栄養学)	4通		1		2						1
	臨地実習Ⅴ(公衆栄養学)	4通		1		2						1
	小計(5科目)	—										
専門発展分野	食品機能性成分の理解	3前		2		1						
	食品微生物学	3後		2		1						
	食産業の理解	3後		2		1						
	地域食産業演習	4通		2		1						
	小計(4科目)	—										
ゼミナール	卒業基礎ゼミ	3後	2			10	1					
	卒業ゼミ	4通	2			10	1					
	卒業年次セミナー	4通		2		10	1					
	小計(3科目)	—										
教職に関する科目	教職入門(中等)	1前			2							1
	教育心理学(中等)	2・3後			2							1
	教育原理(中等)	1前			2							1
	教育制度論(中等)	1後			2							1
	中等道徳教育論	2後			2							1
	中等特別活動論	2後			2							1
	中等教育方法論	2前			2							1
	中等生徒指導論(栄養)	2前			2							1
	中等教育相談	2後			2							1
	学校栄養教育実習事前事後指導	3・4通			1	2	1					1
	学校栄養教育実習	4通			1	1	1					1
	教職実践演習(栄養)	4後			2	2	1					1
	小計(12科目)	—										
資格課程関連授業科目	学校栄養教育論Ⅰ	3前			2	1	1					
	学校栄養教育論Ⅱ	3後			2	1	1					1
	憲法Ⅰ	1・2前			2							2
	憲法Ⅱ	1・2後			2							2
小計(4科目)	—											
合計(356科目)	—											
卒業要件及び履修方法												
必修科目85単位、専門科目の選択科目から93単位、修道スタンダード科目から6単位以上、共通教育科目から22単位以上を修得し、124単位以上修得すること。(履修科目の登録上限46単位(年間))												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成29年度】

- ・グローバル科目の再編により、担当者数を変更。
- ・留学生教育科目のうち、「日本研究」に詳細科目名を設定。
- ・留学支援教育科目に、留学先で取得した単位の認定科目として「海外研修A～E」を追加。
- ・国際共修科目について、詳細科目名を設定。
- ・教養科目の担当者の時間割編成により「西洋文学」「西洋史」「経済学」「総合教養講義a(家族と法)」「総合教養コース(情報化社会と人間)」の担当者数を変更。
- ・外国語科目英語科目については、入学した学生のレベルに応じたクラス設定を行うため、担当者数を変更、それに伴い、全学的な英語科目の担当者数を変更。
- ・初修外国語の上級クラスを充実させるため、ドイツ語、フランス語、スペイン語に上級科目を設置。それにより、クラス担当者数を変更。
- ・保健体育科目の前年度の受講希望者により、クラスを再編成したため、担当者数を変更。

【平成30年度】

- ・少人数クラスにするため「情報処理入門Ⅰ」の担当者を「兼任2」から「兼任3」に変更。
- ・交換留学生のクラス充実のため「日本語Ⅱ」「日本語Ⅴ」「日本語Ⅷ」のクラスを増設、「兼任2」から「兼任3」に変更。
- ・グローバルコース履修者への授業充実を図るため、「グローバル特講Ⅰ」を「兼任1」から「兼任1、兼任1」に変更。
- ・兼任の退職により、「芸術学」「地理学」が「兼任1、兼任1」から「兼任1」に変更。
- ・兼任の採用により、「経済学」「教養講義」が「兼任2」から「兼任2、兼任1」に変更、教養講義(現代経済学)が「兼任1」から「兼任1、兼任1」に変更。
- ・科目担当者の時間割調整により、「総合教養コース(情報化社会と人間)」が「兼任4」から「兼任2」に変更。
- ・外国語科目英語科目については、入学した学生のレベルに応じたクラス設定を行うため、担当者数を変更、それに伴い、全学的な英語科目の担当者数を変更。
- ・保健体育科目の前年度の受講希望者により、クラスを再編成したため、担当者数を変更。

【令和元年度】

- ・クラス数調整により「情報処理入門Ⅰ」を「兼任3」から「兼任2」、情報処理入門Ⅱ(情報と表現)を「兼任4」から「兼任5」に変更。
- ・科目充実のため「グローバル特講Ⅰ」の「兼任・兼任2」を「兼任3」に変更。
- ・海外セミナーに担当者を割り当てたため「海外研修A」「海外研修B」「海外研修C」「海外研修D」「海外研修E」に「兼任1」を追加した。
- ・担当者の体調により「多文化交流プロジェクト(地方の魅力)」を「兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・時間割調整により「心理学」の「講師1」から「教授2」に変更。
- ・授業時間割の調整により「地理学」の「兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・時間割調整により「教養講義(現代経済学)」の「兼任2」から「兼任1」に変更。
- ・クラス数調整により「英語ライティング研究Ⅰ」「英語ライティング研究Ⅱ」の「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・クラス数調整により「ドイツ語Ⅰ～Ⅳ」「中国語Ⅰ～Ⅳ」「韓国・朝鮮語Ⅰ～Ⅳ」を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・授業時間割の調整により「健康科学論」の「兼任・兼任3」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・クラス数調整により「健康スポーツ実習(ソフトボール)」を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」、健康スポーツ実習(卓球)を「兼任・兼任2」を「兼任・兼任3」、「運動スポーツ実習(ゴルフ)」を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・次の科目は、開講期について整備をし、申請時の開講期とした。
「生化学実験」「解剖生理学実験」「基礎分析実験」「食品学実験Ⅰ」「食品学実験Ⅱ」「食品衛生学実験」「調理学実習Ⅰ」「調理学実習Ⅱ」「調理学実習Ⅲ」「栄養生理学実験」「応用栄養学Ⅰ」「臨床栄養学Ⅰ」

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
55 科目	275 科目	16 科目	346 科目	55 科目 [0]	319 科目 [44]	16 科目 [0]	390 科目 [44]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	広島学(広島・ヒロシマで学ぶ、広島・ヒロシマを学ぶ)	2	2	一般	選択	担当教員退職により、次年度開講で調整中。
2	教養講義(西洋の音楽)	2	1・2	一般	選択	担当教員退職により、次年度開講で調整中。
3	教養講義(西欧近代史)	2	1・2	一般	選択	担当教員退職により、次年度開講で調整中。
4	教養講義(社会と政治)	3	1・2	一般	選択	担当者時間割調整により、次年度開講で調整中。
5	総合教養講義a(現代日本社会の諸相)	2	1・2	一般	選択	担当教員退職により、次年度開講で調整中。
6	総合教養講義a(日本の社会および経済の文化的基礎)	2	1・2	一般	選択	担当教員退職により、次年度開講で調整中。
7	総合教養講義a(江戸時代の化粧・結髪)	2	1・2	一般	選択	担当教員の時間割調整により、次年度開講で調整中。
8	総合教養講義a(情報と社会)	2	1・2	一般	選択	担当教員の時間割調整により、次年度開講で調整中。
9	総合教養講義a(神仏と芸能)	2	1・2	一般	選択	担当教員の時間割調整により、次年度開講で調整中。
10	総合教養講義a(自然環境と災害)	2	1・2	一般	選択	担当教員退職により、次年度開講で調整中。
11	総合教養講義b(和紙)	2	1・2	一般	選択	担当教員の時間割調整により、次年度開講で調整中。
12	英語ライティング研究Ⅲ	2	1・2	一般	選択	クラス数調整により、次年度開講で調整中。
13	英語ライティング研究Ⅳ	2	1・2	一般	選択	クラス数調整により、次年度開講で調整中。
14	資格英語研究Ⅴ	2	1・2①～②	一般	選択	担当教員退職により、令和元年度未開講
15	資格英語研究Ⅵ	2	1・2③～④	一般	選択	担当教員退職により、令和元年度未開講
16	健康スポーツ実習(フットサル)	1	1・2①～④	一般	選択	担当者の授業数調整により、令和元年度未開講
17	健康スポーツ実習(ボディアワーク)	1	1・2	一般	選択	担当教員の時間割調整により、今年度未開講。
18	運動スポーツ実習(エアロビクス)	1	1・2	一般	選択	担当教員の時間割調整により、今年度未開講。
19	運動スポーツ実習(ダンス)	1	1・2	一般	選択	担当教員の時間割調整により、今年度未開講。

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	地域イノベーション論	2	1・2	一般	選択	平成29年度に開設した国際コミュニティ学部にて左記「地域イノベーションコース」科目の関連科目(一部)を置くこととしたため、廃止とし、以下の科目を他学部履修科目として履修できることとした。 地域コミュニケーション、ソーシャルイノベーション論、地域プロジェクトA(ひろしま未来協創プロジェクト・I・IIの後継科目)、地域プロジェクトB(ひろしま未来協創プロジェクト、イノベーションプロジェクトI・IIの後継科目)、グローバル・プロジェクト入門(ひろしま未来協創特講の後継科目)
2	地域コミュニケーション論	2	1・2	一般	選択	
3	ひろしま未来協創プロジェクト(都心のコミュニケーション)	2	2・3	一般	選択	
4	ひろしま未来協創プロジェクト(中山間地域のコミュニケーション)	2	2・3	一般	選択	
5	ひろしま未来協創プロジェクト(都心のイノベーション)	2	2・3	一般	選択	
6	ひろしま未来協創プロジェクト(中山間地域のイノベーション)	2	2・3	一般	選択	
7	ひろしま未来協創特講(ファシリテーション入門)	1	1・2	一般	選択	
8	ひろしま未来協創特講(ワークショッブ・スキル入門)	1	1・2	一般	選択	
9	ひろしま未来協創特講(発見・デザイン・中山間)	1	1・2	一般	選択	
10	ひろしま未来協創特講(発見・デザイン・都心)	1	1・2	一般	選択	
11	イノベーション・プロジェクトI(地域課題研究2019)	2	3・4	専門	選択	
12	イノベーション・プロジェクトII(地域課題研究2019)	2	3・4	専門	選択	
13	イノベーション・プロジェクトI(地域課題研究2020)	2	3・4	専門	選択	
14	イノベーション・プロジェクトII(地域課題研究2020)	2	3・4	専門	選択	

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

全学共通科目の教養科目については、詳細付の科目であり、担当者によって変遷する。
 学生への周知は、シラバスの配当表をホームページに掲載しているほか、ガイダンスにおいても履修に際しての注意事項として喚起している。
なお、地域イノベーションコースの見直しにより、関連科目の一部は国際コミュニティ学部地域行政学部の科目として開設され、他学部の履修を認めている。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{33}{346} = \boxed{9.53} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考					
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計						
	校舎敷地	36,805㎡	0㎡	0㎡	36,805㎡						
	運動場用地	101,957㎡	0㎡	0㎡	101,957㎡						
	小 計	138,762㎡	0㎡	0㎡	138,762㎡						
	そ の 他	200,113㎡	0㎡	0㎡	200,113㎡						
合 計	338,875㎡	0㎡	0㎡	338,875㎡							
(2) 校 舎	専 用	70,640㎡ 70,746㎡ (70,640㎡) (70,746㎡)	0㎡	0㎡	70,640㎡ 70,746㎡ (70,640㎡) (70,746㎡)	建築計画と登記上の誤差による。(29)					
	共 用	(0㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(0㎡)						
(3) 教 室 等	講 義 室	98室 100室	演 習 室	17室 20室	実験実習室	65室	情報処理学習施設	18室 (補助職員 一人)	語学学習施設	7室 8室 (補助職員 一人)	大学全体 利用計画の変更による。(29)
	新設学部等の名称		健康科学部 健康栄養学科		室 数		12		室		
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本				
		[うち外国書]	[うち外国書]					[うち外国書]	点	点	点
	健康科学部 健康栄養学科	冊	種	種	点	点	点				
		891,025[236,988]	5,961[2,579]	12,656[12,597]	23,828						
		891,349[237,194]	5,876[2,554]	13,227[13,167]	23,712						
		887,652[239,007]	5,663[2,500]	12,918[12,298]	22,900						
		942,647[242,562]	5,787[2,531]	12,403[12,352]	22,606						
		(880,525[235,708])	(5,961[2,579])	(12,656[12,597])	(23,828)						
		(870,349[234,634])	(5,876[2,554])	(13,227[13,167])	(23,712)						
		(849,122[232,467])	(5,663[2,500])	(12,918[12,298])	(22,900)						
(906,647[236,022])	(5,787[2,531])	(12,403[12,352])	(22,096)								
計	891,025[236,988]	5,961[2,579]	12,656[12,597]	23,828							
	891,349[237,194]	5,876[2,554]	13,227[13,167]	23,712							
	887,652[239,007]	5,663[2,500]	12,918[12,298]	22,900							
	942,647[242,562]	5,787[2,531]	12,403[12,352]	22,606							
	(880,525[235,708])	(5,961[2,579])	(12,656[12,597])	(23,828)							
	(870,349[234,634])	(5,876[2,554])	(13,227[13,167])	(23,712)							
	(849,122[232,467])	(5,663[2,500])	(12,918[12,298])	(22,900)							
	(906,647[236,022])	(5,787[2,531])	(12,403[12,352])	(22,096)							
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数						
	11,700㎡		952 948		1,200,000		大学全体 増席(29)				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要								
	8,871㎡		屋内プール1面	野球場1面	陸上競技場1面	アーチェリー場1面					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	届出学部全体		
		教員1人当り研究費等	676千円	676千円	図書購入費	10,714千円 10,708千円	2,626千円 3,858千円	9,396千円	図書費には電子ジャーナル・データベース整備費(運用コスト含む)を含む。		
	共同研究費等	600千円 1,000千円	1,000千円	設備購入費	283,999千円 270,332千円	2,259千円 2,149千円	15,891千円	開設前年度事業終了に伴う執行額確定のため。(29)			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	開設年度事業終了に伴う執行額確定のため。(30)			
	学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等									

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	広島修道大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍				
商学部										
商学科	4	155	—	620	学士 (商学)	1.10		昭和35年度	広島市安佐南区 大塚東一丁目1番1号	
経営学科	4	140	—	560	学士 (経営学)	1.13		昭和38年度	同上	
経済科学部										
現代経済学科	4	115	—	460	学士 (経済科学)	1.09		平成9年度	同上	
経済情報学科	4	115	—	460	学士 (経済科学)	1.09		平成9年度	同上	
人文学部										
人間関係学科	4	60	—	240	学士 (文学)	1.15		昭和48年度	同上	
心理学専攻	4	—	—	—	学士 (文学)	—		昭和48年度	同上	平成29年より 学生募集停止
社会学専攻	4	60	—	240	学士 (文学)	1.15		昭和48年度	同上	
教育学専攻	4	—	—	—	学士 (文学)	—		昭和48年度	同上	平成28年より 学生募集停止
教育学科	4	100	—	400	学士 (教育学)	0.99	平成28年	平成28年度	同上	
英語英文学科	4	110	—	440	学士 (文学)	1.11		昭和48年度	同上	
法学部										
法律学科	4	195	—	780	学士 (法学)	1.09		昭和51年度	同上	
国際政治学科	4	—	—	—	学士 (国際政治学)	—		平成2年度	同上	平成30年より 学生募集停止
人間環境学部										
人間環境学科	4	115	—	460	学士 (人間環境学)	1.08		平成14年度	同上	
健康科学部										
心理学	4	80	—	320	学士 (心理学)	1.09	平成29年	平成29年度	同上	
健康栄養学科	4	80	—	320	学士 (栄養学)	1.00	平成29年	平成29年度	同上	
国際コミュニティ学部										
国際政治学科	4	75	—	300	学士 (国際政治学)	1.05	平成30年	平成30年度	同上	
地域行政学科	4	75	—	300	学士 (地域行政学)	1.10	平成30年	平成30年度	同上	
商学研究科										
商学専攻										
博士前期課程	2	8	—	16	修士 (商学)	0.12		昭和46年度	同上	
博士後期課程	3	2	—	6	博士 (商学)	0.16		昭和48年度	同上	
経営学専攻										
博士前期課程	2	12	—	24	修士 (経営学)	0.45		昭和52年度	同上	
博士後期課程	3	3	—	9	博士 (経営学)	0.00		昭和52年度	同上	
経済科学研究科										
現代経済システム専攻										
博士前期課程	2	8	—	16	修士 (経済学又は 経済情報)	0.18		平成13年度	同上	
博士後期課程	3	2	—	6	博士 (経済学)	0.00		平成15年度	同上	
経済情報専攻										
博士前期課程	2	8	—	16	修士 (経済学又は 経済情報)	0.18		平成13年度	同上	
博士後期課程	3	2	—	6	博士 (経済情報)	0.00		平成15年度	同上	

人文科学研究科									
心理学専攻									
博士前期課程	2	14	—	28	修士 (心理学)	0.38	昭和53年度	同上	
博士後期課程	3	2	—	6	博士 (心理学)	0.00	昭和56年度	同上	
社会学専攻 修士課程	2	5	—	10	修士 (社会学)	0.10	昭和59年度	同上	
教育学専攻 修士課程	2	5	—	10	修士 (教育学)	0.30	昭和59年度	同上	
英文学専攻									
博士前期課程	2	5	—	10	修士 (文学)	0.70	昭和53年度	同上	
博士後期課程	3	3	—	9	博士 (文学)	0.11	昭和56年度	同上	
法学研究科									
法学専攻 修士課程	2	5	—	10	修士 (法学)	1.10	昭和56年度	同上	
国際政治学専攻 修士課程	2	10	—	20	修士 (国際政治学)	0.15	平成6年度	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

「5教員組織の状況（1）担当教員表」は、個人情報を含む内容のため、掲載しておりません。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等		履 行 状 況		今後の 実施計画
<p>認可時 (平成28年10月)</p>	<p>1. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編製の将来構想について着実に実施すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>平成30年4月23日に開催された大学運営会議において、学部長をリーダーとする5名の構成員（健康科学部教授4名及び総務部長）から成る「健康科学部教員組織編製の将来構想検討ワーキンググループ」を設置を決定した。その後このワーキンググループにおいて完成年度以降の教員組織について継続的に検討した。その結果、完成年度前に本学規程に定める退職年齢を超える専任教員5名（「臨床医学」「生化学」「食品学」「調理学」及び「公衆栄養学」）のうち、適格者が特に少ないことが予想される2名（「臨床医学」及び「公衆栄養学」）について、令和元年度の本学「教員採用計画」に盛り込み、令和3年度の採用に向けて令和元年度中に公募を開始することを決定した。これについては、平成31年3月1日に開催された大学評議会において承認された(資料12)。また「食品学Ⅰ」及び「調理学」の後任人事については、令和2年度中に公募を開始することとした。さらに「生化学」については、現有の他の専任教員が適格と認められるように研究業績を積むように引き続き促している。</p>	<p>履行中</p>	<p>完成年度前に本学規程に定める退職年齢を超える専任教員5名のうち、適格者が少ないことが予想される4名（「臨床医学Ⅰ」「食品学Ⅰ」「調理学」「公衆栄養学Ⅰ」の各担当教員）の後任人事については、完成年度後の教員組織が適正となるようにその年齢・職位を勘案しながら、令和元年9月末を目途に公募要領を作成する。また残り1名が担当している「生化学Ⅰ」等の科目担当として、現有の他の専任教員による担当が適格と認められるように当該教員に対して業績を積むことを引き続き促す。</p>
<p>設置計画履行状況 調査時 (平成30年2月)</p>	<p>健康科学部健康栄養学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編製の将来構想について検討すること。</p>	<p>改善意見</p>	<p>同上</p>	<p>履行中</p>	<p>同上</p>

設置計画履行状況 調査時 (平成31年3月)	該当なし		該当なし		
------------------------------	------	--	------	--	--

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<健康科学部 健康栄養学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>広島修道大学FD・SD規定に基づき、全学にわたるFDに関する事項は、広島修道大学大学運営会議で審議する。各学部、研究科については、それぞれFD推進委員会を組織している。健康科学部にも健康科学部FD作業委員会が設置されている。また、健康科学部心理学科及び健康栄養学科は、教育内容、教育方法等の改善を図るために、それぞれに学科会議を開催してFD活動を行っている。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p><大学運営会議> 学長、副学長、学部長、学長室長、学生センター長、教学センター長、事務局長、総務部長、財務部長、総合企画課長、その他学長が必要と認めたものによって構成され、毎週開催される。令和元年度も4月15日の大学運営会議の議題「令和元年度研修計画について」で平成30年度の研修実施実績報告と令和元年度の研修計画が承認された。</p> <p><健康科学部FD推進(作業)委員会> 年に2回以上開催しており、健康科学部専任教員及び学部担当教務職員が参加する。</p> <p><学科会議> 心理学科、健康栄養学科のそれぞれが毎月定例で開催しており、各学科の専任教員がすべて参加する。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p><大学運営会議></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. FD及びSDを推進するための企画及び調整に関すること 2. FD及びSDに関する報告書等の作成に関すること 3. その他FD及びSDの推進に関すること <p><健康科学部FD推進委員会></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カリキュラム・授業科目の構成について 2. 授業科目のシラバス・授業計画の内容について 3. 授業の方法について 4. 履修指導について 5. 厳正で客観的な成績評価方法について 6. 成績評価結果の告知方法について 7. 進級制度及び進級認定について 8. 最終試験及び卒業認定について 9. 資格取得について 10. 授業アンケートについて 11. その他必要な事項について <p><学科会議></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各学科におけるカリキュラム・授業科目の構成について 2. 各学科における授業科目のシラバス・授業計画の内容について 3. 各学科における授業の方法について 4. 各学科における履修指導について 5. 各学科に関連する校務分掌について 6. 一般入試における指定科目の検討並びに推薦入試の出題内容について 7. オープンキャンパスの内容並びに担当者について 8. 学科予算について 9. 学科事業計画について 10. その他必要な事項について <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p>全学では、教員の資質向上のために、大学改善のための諸方策について大学教職員の共通認識を醸成することを目指したFD・SD研修会、新任教員のための研修会である教育力アップセミナー、教授方法の改善を目指した組織的な公開授業等を行っている。健康科学部では、カリキュラム、成績評価、授業の方法等について、心理学科、健康栄養学科に共通する課題を予めFD推進(作業)委員会委員が整理し、学部教授会に提出して審議している。また心理学科、健康栄養学科の定例の学科会議においては、その折々の学科の抱える課題を解決してきた。</p>
--

b 実施方法

全学的なFD・SD研修会はすべての教員が参加しやすいように定例教授会の開始時間を1時間繰り下げて教授会前に行う。またFD・SD研修会では、報告者を工夫することで大学を構成する各部署がその取り組みを共有できるようにしている。健康科学部FD推進(作業)委員会によって整理された検討事項は教授会において審議している。また心理学科、健康栄養学科の各会議も定例教授会の終了後に連続して開催し、さらに参加者全員が議事録を共有することで教育・研究に関わる学科での取り組みを常に確認できるようにしている。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

〈全学〉

・FD・SD研修会

年2~3回開催。令和元年度は、現時点で、第1回「修道力フォーラム(予定)」(8月5日)、第2回「テーマは調整中」(10月9日)の開催が決定している。平成30年度は以下の通りであった。

第1回「経常費補助金とは？」

(6月13日開催 参加者数：教員157名、職員75名)

第2回「修道力フォーラム—配慮を要する学生への対応について—」

〈第1部〉 発達障がいのある学生への対応

「発達障がいのある学生をどう教育し、どう評価するか？」

「障害者差別解消法施行後の大学の体制と事例報告」

〈第2部〉 広島修道大学の学生対応のいまを語る

〈パネルディスカッション〉

「教育現場での課題と対応を探る」

(8月3日開催 参加者数：教員169名、職員114名)

第3回「「修道力フォーラム」フィードバックと展望」

(10月10日開催 参加者数：教員156名、職員95名)

・教育力アップセミナー(新任教員対象)

平成30年度

「修大を知ろう より効果的な授業のために」

①「学び方の個性を知る—違いから学ぶ、違いを受け入れる姿勢—」

②「違いから学ぼう—各自が抱える教育課題の解決に向けて—」

(8月31日開催 参加者数：教員11名、職員2名)

・教員相互の授業参観

教員個々の授業方法改善のため平成10年以來、公開授業を行っている。令和元年度は5月24日から6月21日までを前期公開授業実施期間として、現在、希望者を募っている。平成30年度は、111名の教員が189クラスで公開授業を実施し、延べ85名の教員が参加をして授業研究を行った。

〈健康科学部〉

平成30年度のFD推進委員会のテーマは以下の通りであった。

第1回 「配慮学生への対応について」(7月11日開催 参加者数：24名)：本学では、平成28年の「障害者差別解消法」の施行に伴い、当該学生本人あるいはその保護者から要請があった場合には、いかなる配慮をその学生が必要としているかを明記した配慮要請文を当該学生の授業担当者に配布している。このFDでは、そのような配慮要請に対する各教員の具体的取り組みを紹介し、またそこで生じる問題点等について情報を交換した。さらに近年増加の傾向がうかがえる発達障害を有する学生、特にアスペルガー症候群の学生に対するレポート指導の在り方について情報を共有した。

第2回 「入試形態によるその後の成績推移について」(12月12日開催 参加者数：23名)：完成年度以降の学部入試のあり方及びそれぞれの定員を検討するための最初の資料として、A0入試をはじめとする種々の入試形態で入学してきた学生たちの入学後の成績変化について、心理学科・健康栄養学科の別にそのGPAを算出し、半期ごとの成績の推移について検討した。その結果、入試形態による入学後成績には大きな差は認められなかったものの、学年・学期進行に伴いGPAが低下する傾向にあることが判明した。今後もこの種のデータを蓄積しつつ、学生指導の在り方を引き続き検討して行くことを確認した。

なお健康科学部は平成30年度が開設2年目であったが、教授会における審議のほとんどをカリキュラムの忠実な履行とその改善策の構築に費やし、講師招聘等による特別な研修会は開催しなかった。令和元年度も引き続きカリキュラムの忠実な履行に努め、その中で発生する諸問題について教員相互で検証・議論しながらFD研修の一環として問題解決に当たりたい。

〈健康栄養学科〉

各学科会議において教学や学生指導上の問題点を整理・検討してきたが、今年度も同様に各学科会議がその種の重要な役割を担う。

なお、健康栄養学科では、平成29年度より完成年度における管理栄養士国家試験の受験対策を始めているが、平成30年度には今後の模擬試験等のスケジュールリングを行い、問題解説者等の役割分担を決定した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

全学のFDでは、参加後のアンケートを通して、次回FDテーマ設定等の参考としている。また、公開授業では、参観者のアドバイスシートを通じて、実施教員の授業改善に活かしている。健康科学部教授会及び各学科における学科会議は、まさに日々の教育に直結する内容ばかりであり、各教員が自らの教育指導に反映させている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

授業改善のために、年2回(前期・後期)定期的に非常勤講師も含めて全教員が実施している。平成30年度は通年で366名の教員が実施し(専任教員の実施率は99.0%)、一人あたりの平均実施科目数は3.34科目であった。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業アンケートの結果は、本人のみならず学科・専攻・グループの単位でもフィードバックし、組織的な点検・評価に活用している。学生等に対しては、本学Webサイトに以下の項目を公開している。

- ・科目分類別の授業アンケート集計表
- ・実施集計表(学部単位の実施者数および率)

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該 当 な し

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

健康科学部は、中央教育審議会答申が「我が国の高等教育の将来像」（平成17年1月28日）で掲げた機能のうち、第一に「高度専門職業人養成」の機能を担い、心理学科では臨床心理士・公認心理師等の心理カウンセラー、健康栄養学科では管理栄養士及び栄養士を養成し、併せて「幅広い職業人養成」の機能を担うことにより、児童心理司、心理判定員、社会福祉主事、食品衛生管理者、食品衛生監視員、高等学校（公民）教諭、栄養教諭等を養成することを目的として設置された。また、以上のような人材を社会に送り出すことによって「社会貢献（地域貢献）機能」をも担う。

設置1年目の平成29年度は、健康科学部並びに心理学科、健康栄養学科のそれぞれの設置趣旨・目的について、入学時の教学センターガイダンス、学科教員ガイダンス、チューターガイダンス、更には学科基礎科目等で折に触れてしっかりと学生に認識させながら履修指導を行うとともに、健康科学部設置趣意書に記載した両学科のカリキュラムを履行した。

平成30年度の健康栄養学科では、引き続き真摯に規定のカリキュラムを履行するとともに、「給食経営管理実習Ⅱ（地域配食）」という実習授業を通じて、広島修道大学が所在する広島市安佐南区戸山地区に居住する高齢者の方々に地域配食を実施し、同時に地域の方々と学生・教員による種々の交流会を催す等、「社会貢献（地域貢献）機能」の教育を充実させた。また3年後に迫った管理栄養士国家試験を見据え、今年度以降の模擬試験のスケジューリング並びに学生への周知、専門分野ごとの問題解説者の分担も決定した。今後は国家試験合格者を可能な限り入学者の100%に近づけるべく努力を継続する。

ただし令和元年度入試では、入学定員80名に対して全ての入試制度における志願者数が331名（平成30年度入試402名）と減少し、さらに入学者数は77名と入学定員に達しなかった。現在その原因を分析中であるが、既に指定校の再検討、高校訪問・模擬講義担当者の決定等、志願者数増加に向けての取り組みを始めている。今後も大学教職員一体となつての広報活動を展開することによって、本学健康栄養学科の存在意義を引き続き世に問うていきたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和元年8月1日 公表

b 公表方法

本学は、学則及び大学院学則において、「その教育研究水準の向上を図り、大学の目的及び社会的使命を達成するため、大学における教育研究活動等の状況について自己点検・評価を行い、その結果を公表するものとする」と定めている。また、その教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとし、社会に対する説明責任を課している。具体的には、本学の取り組みを、『広島修道大学の現状と課題』（1993年～）、『広島修道大学白書』（1999年度～）、『広島修道大学の現況』（2009年度～）として刊行し、社会に公開している。また、Webサイトでも同様の情報公表を行っている。

③ 認証評価を受ける計画

これまで、平成16年度、平成23年度、及び平成30年度に大学基準協会の第三者評価を受け、適合と判定されている。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 (有 ・ 無)

b 公表有の場合の公表（予定）時期 (令和元年 7月 1日)

b 公表無の場合の特段の理由 ()

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。